

# 東北森林管理局管内の 木材需給及び木材価格等について

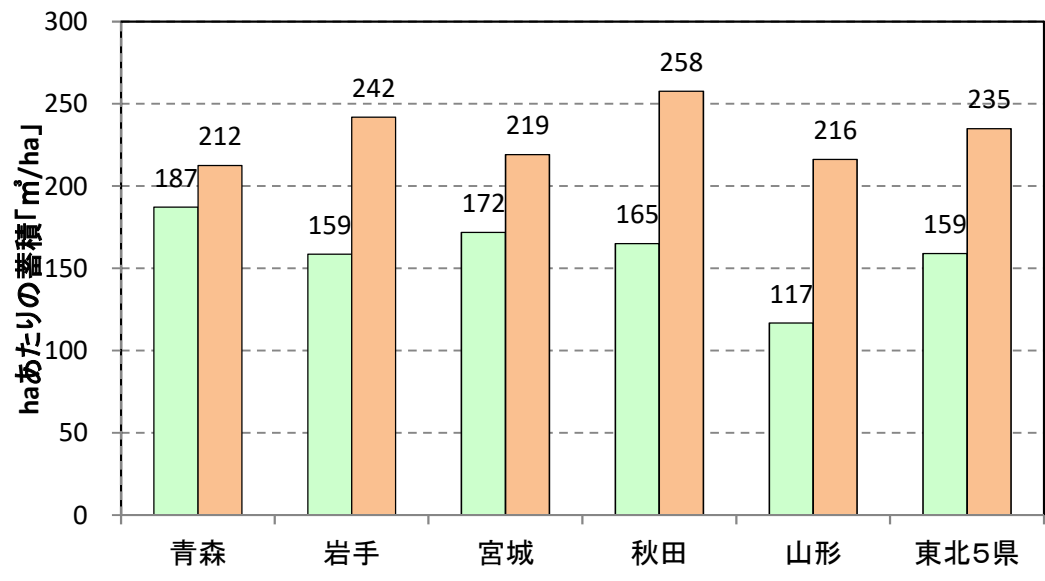
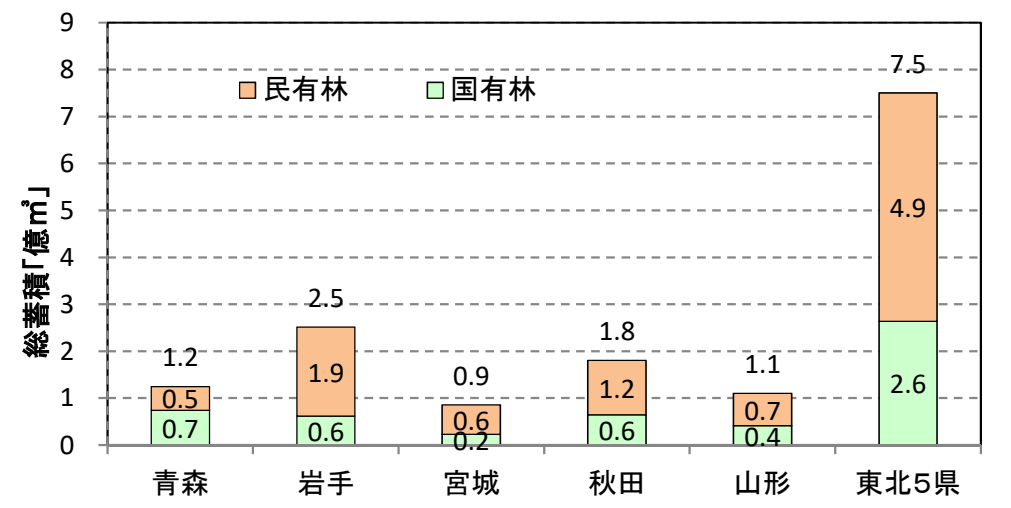
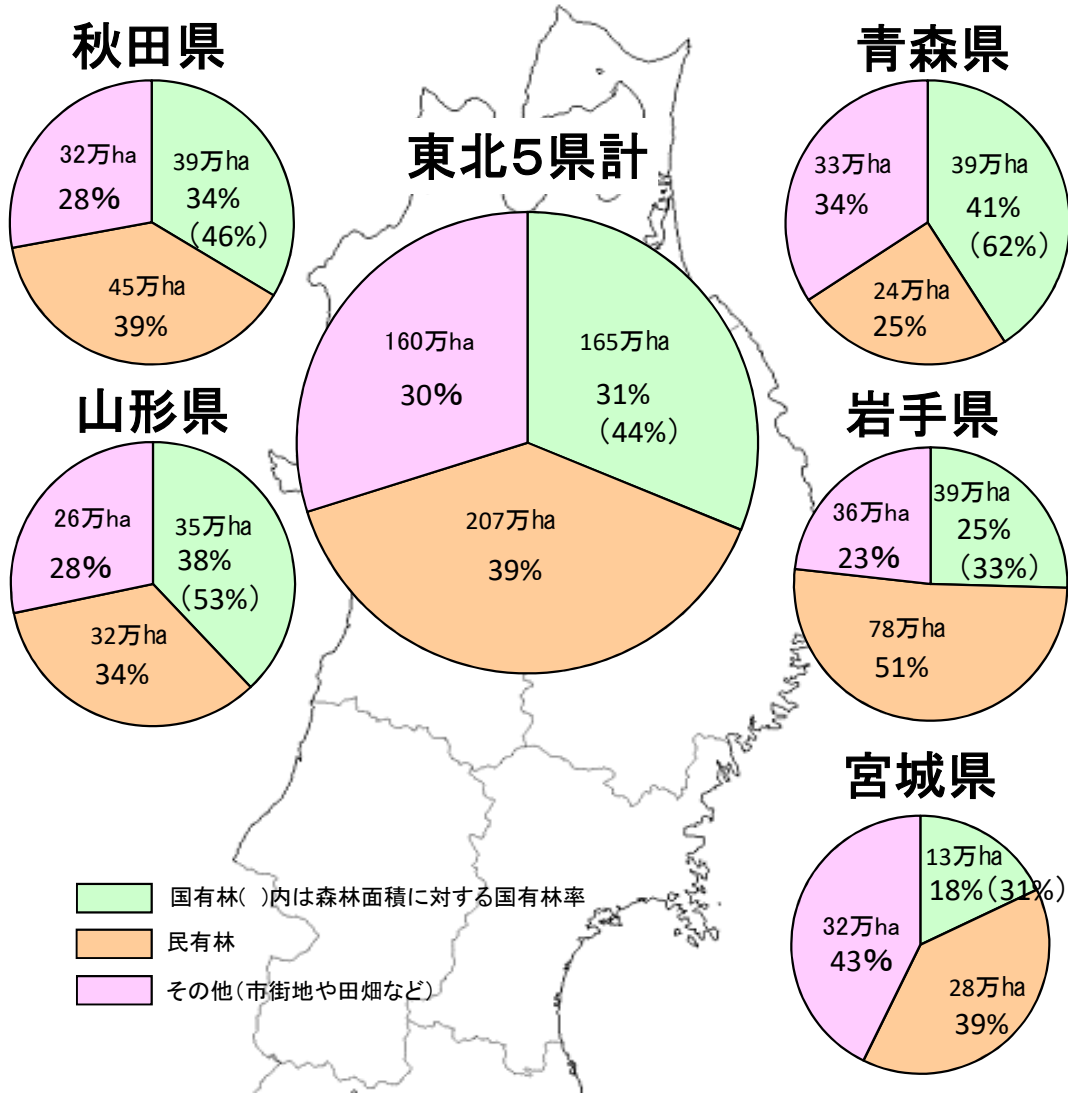
令和2年6月11日(木)

東北森林管理局



# ■ 東北森林管理局管内5県の森林面積及び森林蓄積量

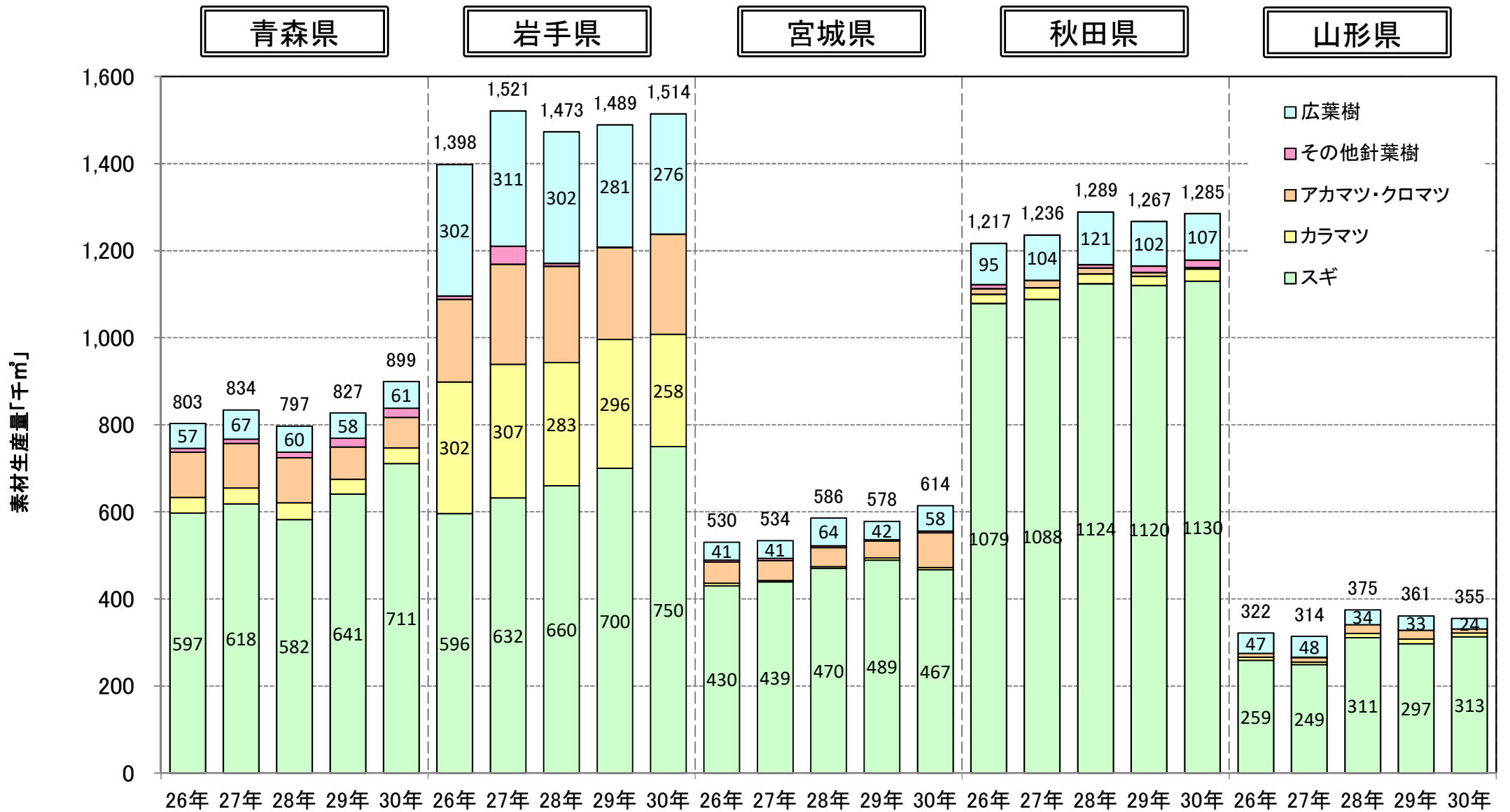
○ 管内東北5県の蓄積量は約7.5億m<sup>3</sup>で、全国52億m<sup>3</sup>の約14%相当。  
 ○ 国有林は森林面積の約44%を占め、蓄積では34%。民有林のha当たりの蓄積は200m<sup>3</sup>/haを上回る。



出典: 青森県の森林・林業(令和元年度版)、平成30年度版 岩手県林業の指標、みやぎの森林・林業のすがた(令和元年度版)、平成30年度版 秋田県林業統計、山形県林業統計(平成30年度版)、国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」(令和元年10月1日)、林野庁「森林資源の現況」(平成29年3月31日現在)、林野庁「第71次令和元年国有林野事業統計書(平成30年度)」

# ■ 東北森林管理局管内各県の国産材の樹種別素材生産量(民・国の合計)

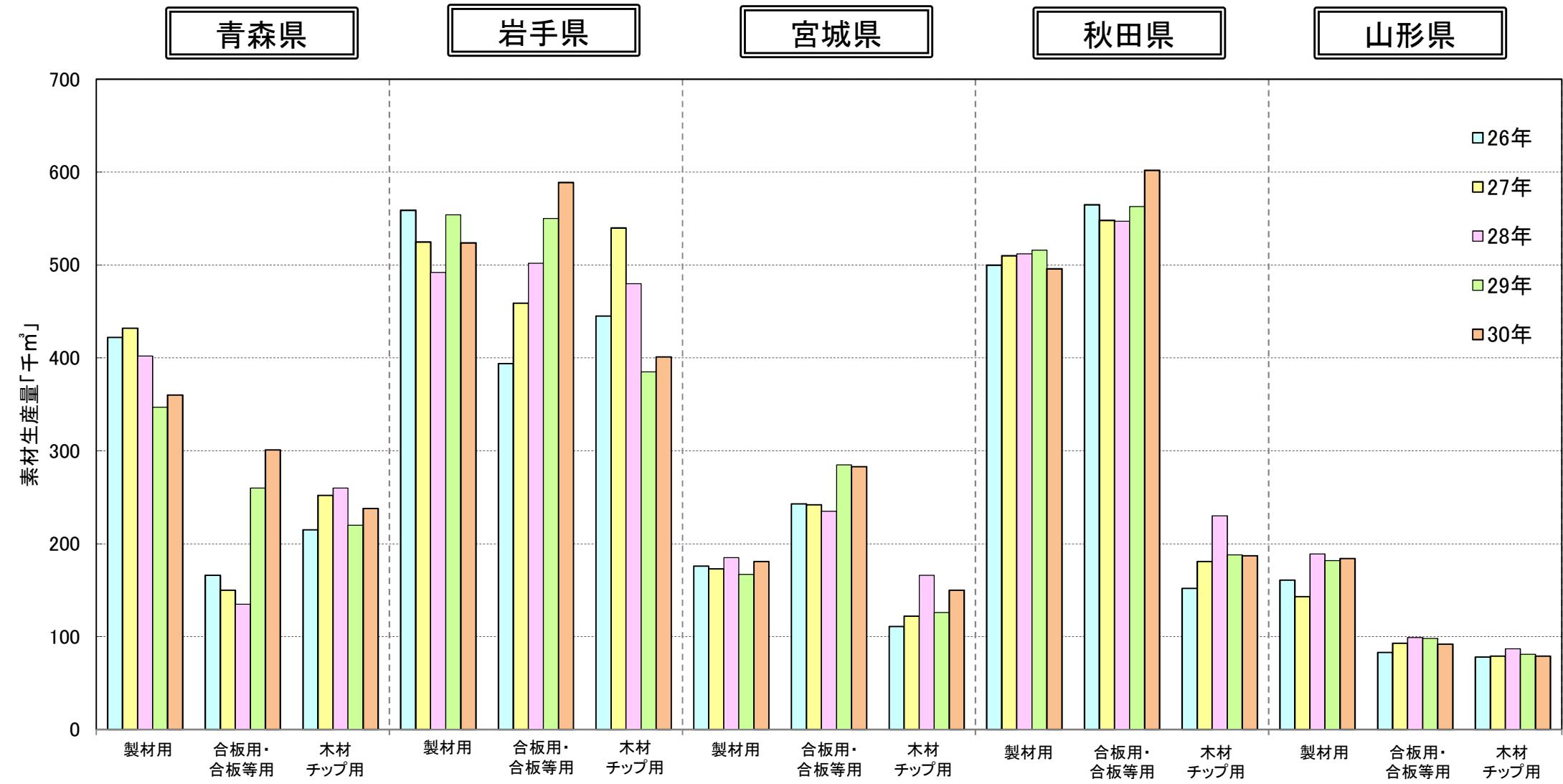
○ 生産樹種は県によって異なる。青森県・宮城県・秋田県・山形県はスギが主体。  
 ○ 岩手県ではスギに加え、カラマツ・アカマツ・クロマツ・広葉樹の生産量が多い。



出典：農林水産省「木材統計」(30年度までの集計値)  
 注意：平成29年度から集計項目の「合板用」が新たにLVL用を含めた「合板等用」に変更となったため、平成28年以前の数値と直接的な比較はできない

# ■ 東北森林管理局管内各県の需要部門別国産材の素材生産量

- H30年では製材用の比率が高いのは青森県(40%)、山形県(52%)。
- H30年では合板等用の比率は岩手県(39%)、宮城県(46%)、秋田県(47%)が高い。
- H30年では木材チップ用の比率は秋田県(15%)が低い。



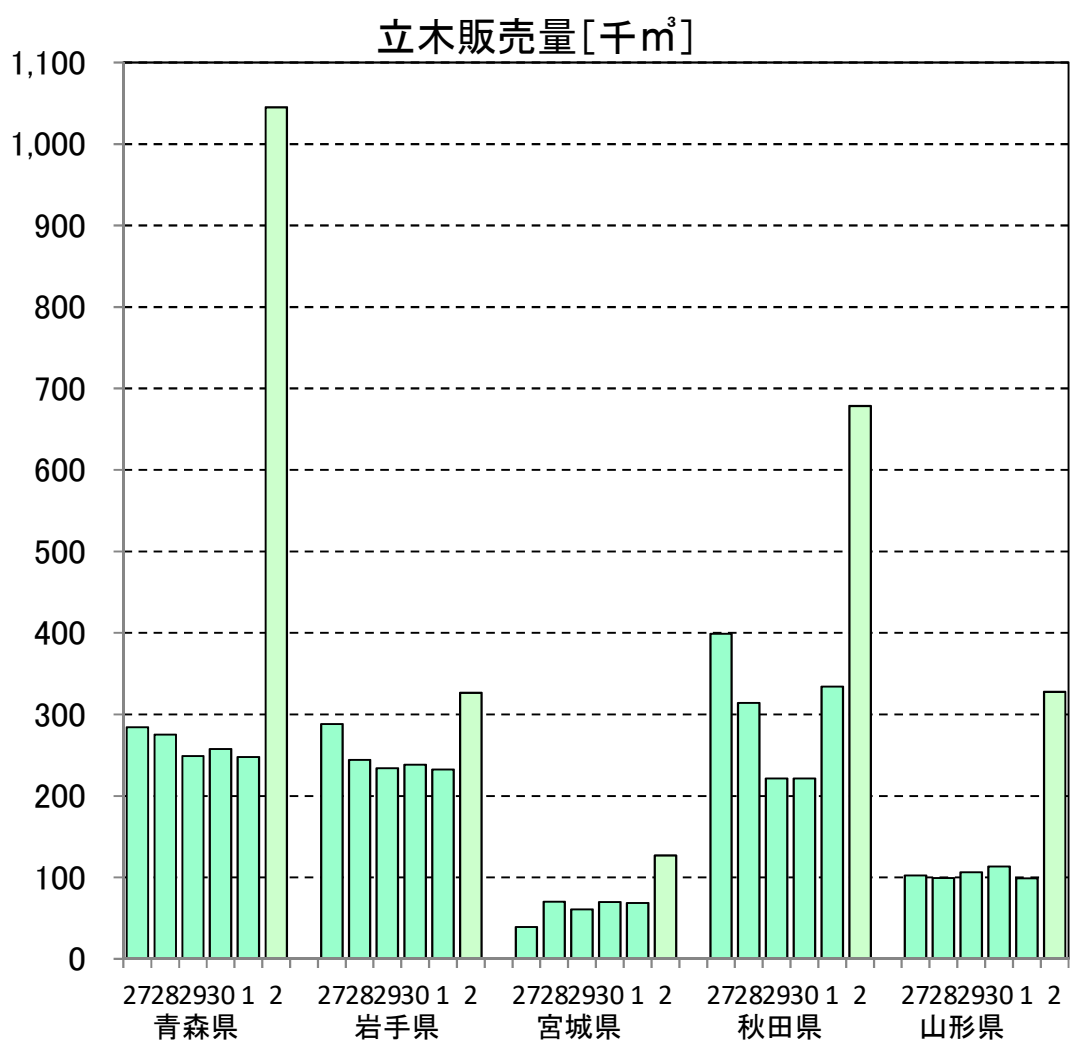
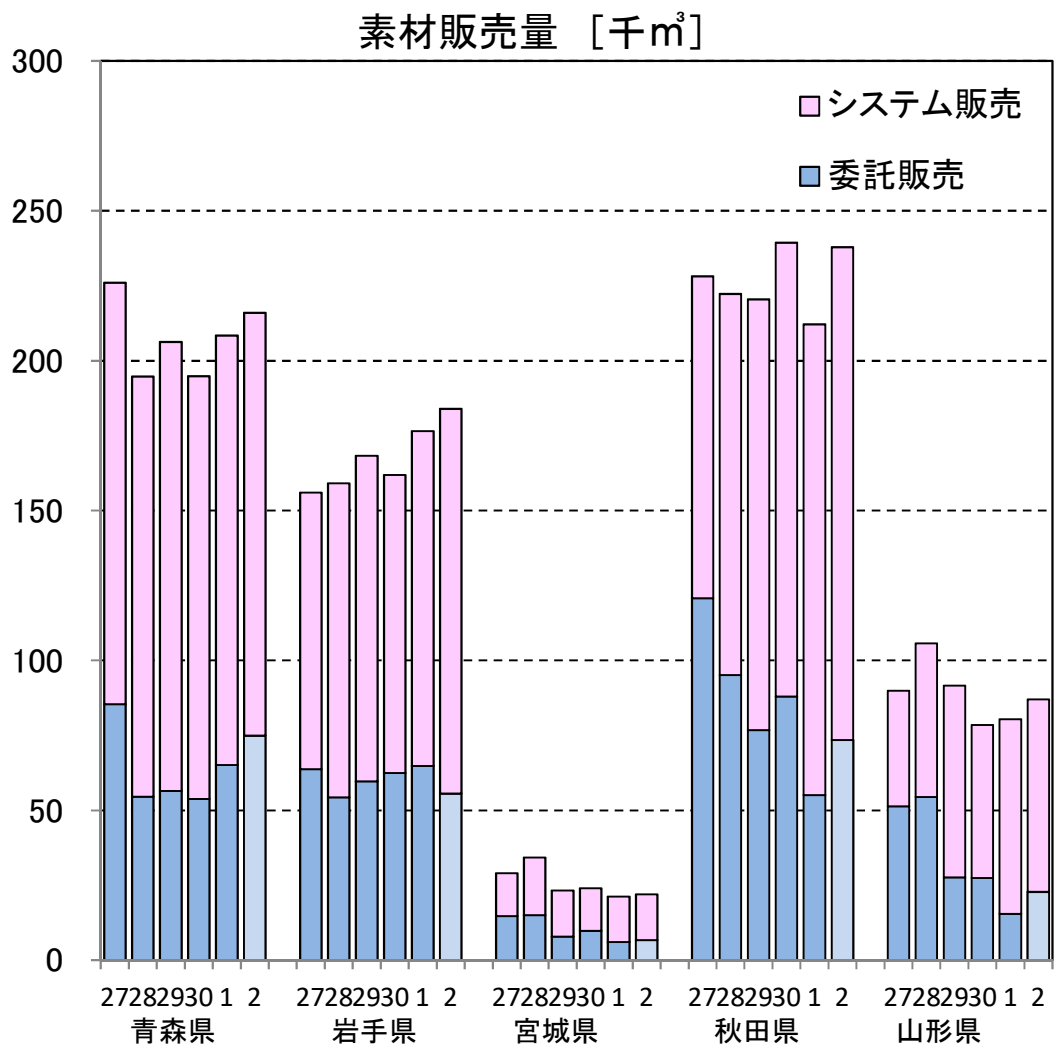
出典：農林水産省「木材統計」(30年度までの集計値)  
 注意：平成29年度から、「合板用」が新たにLVL用を含めた「合板等用」に変更となった



# ■ 東北森林管理局管内5県の国有林材の販売実績の推移

○ 令和元年度の各県における素材販売量に占めるシステム販売の割合は63%～81%で東北5県では70%だった。令和2年度計画では、各県におけるシステム販売は65%～74%で、東北5県では約69%となっている。

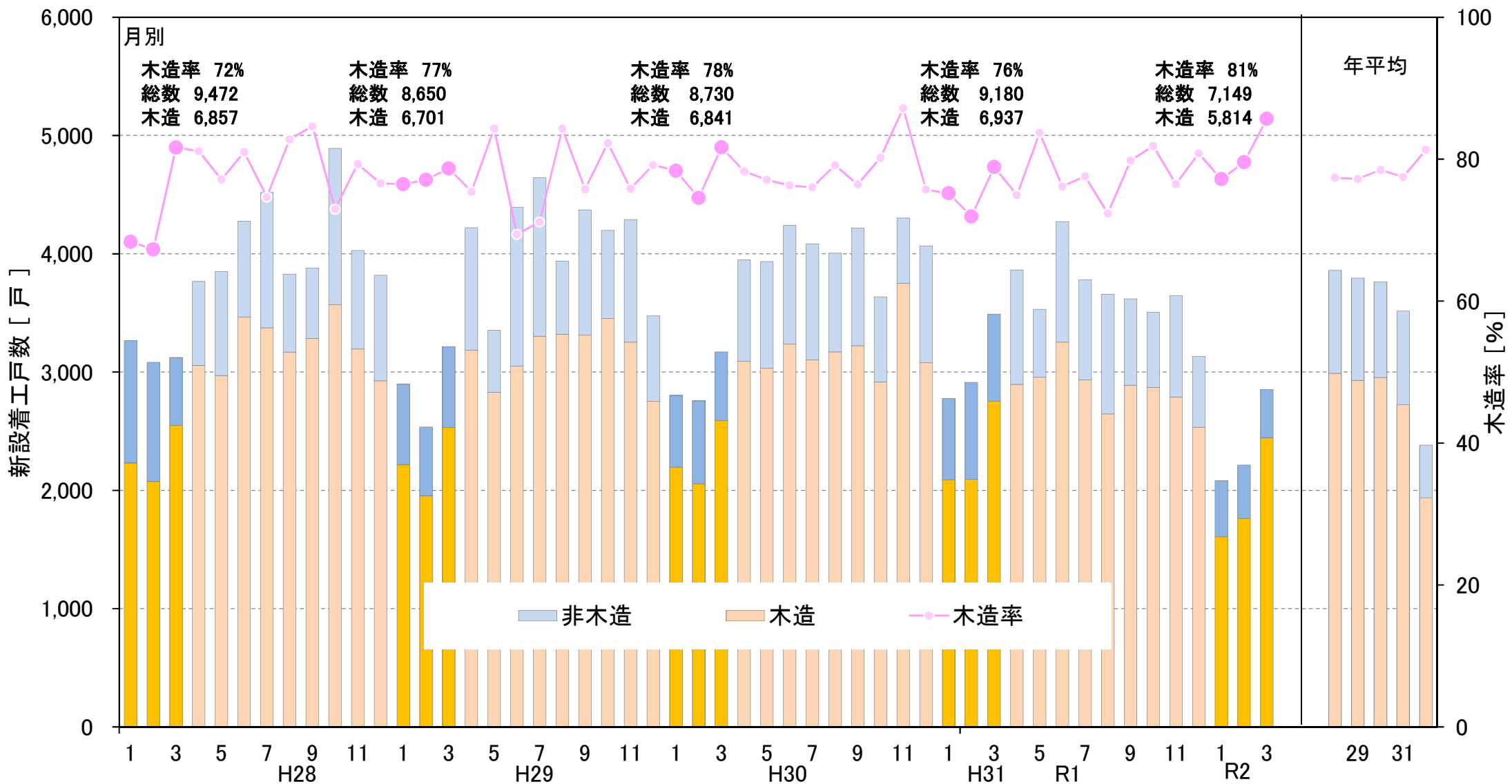
○ 令和元年度の立木販売実績は平成27年度と比較すると-12%、前年度比では+9%となっている。



注1: 素材販売量は丸太の材積であり、立木販売量は立木材積である。  
 注2: 令和2年度は計画量である。  
 出典: 林野庁業務資料

# ■ 東北森林管理局管内5県の新設住宅着工戸数の推移 (平成28年1月～令和2年3月)

○ 東北5県の令和2年1～3月期の新設住宅着工数は、昨年同期より2,031戸減少した。  
 この期間の木造は昨年同期より1,123戸減少し、木造率は5%増加した。

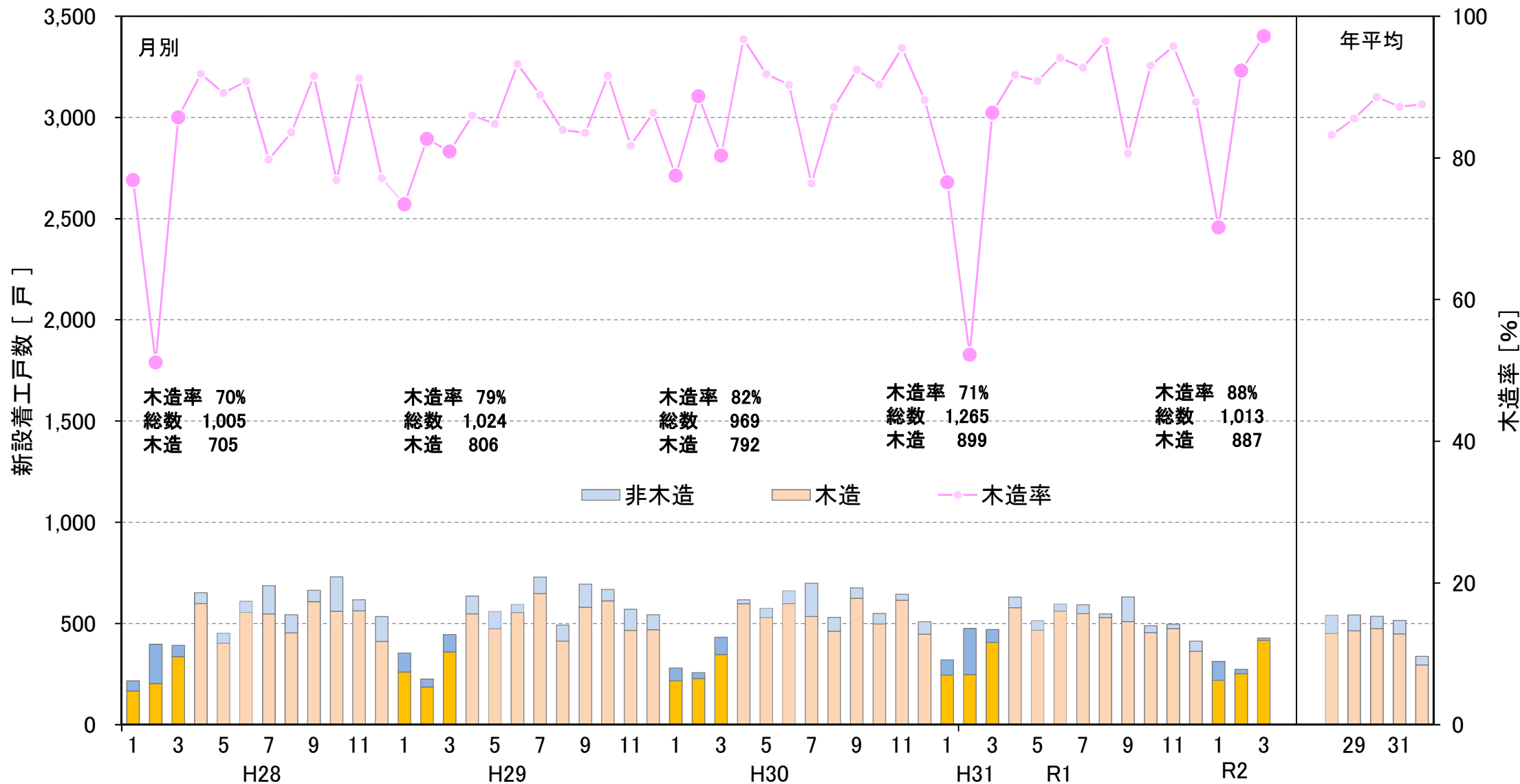


出典：国土交通省「住宅着工統計」



# 青森県の新設住宅着工戸数の推移 (平成28年1月～令和2年3月)

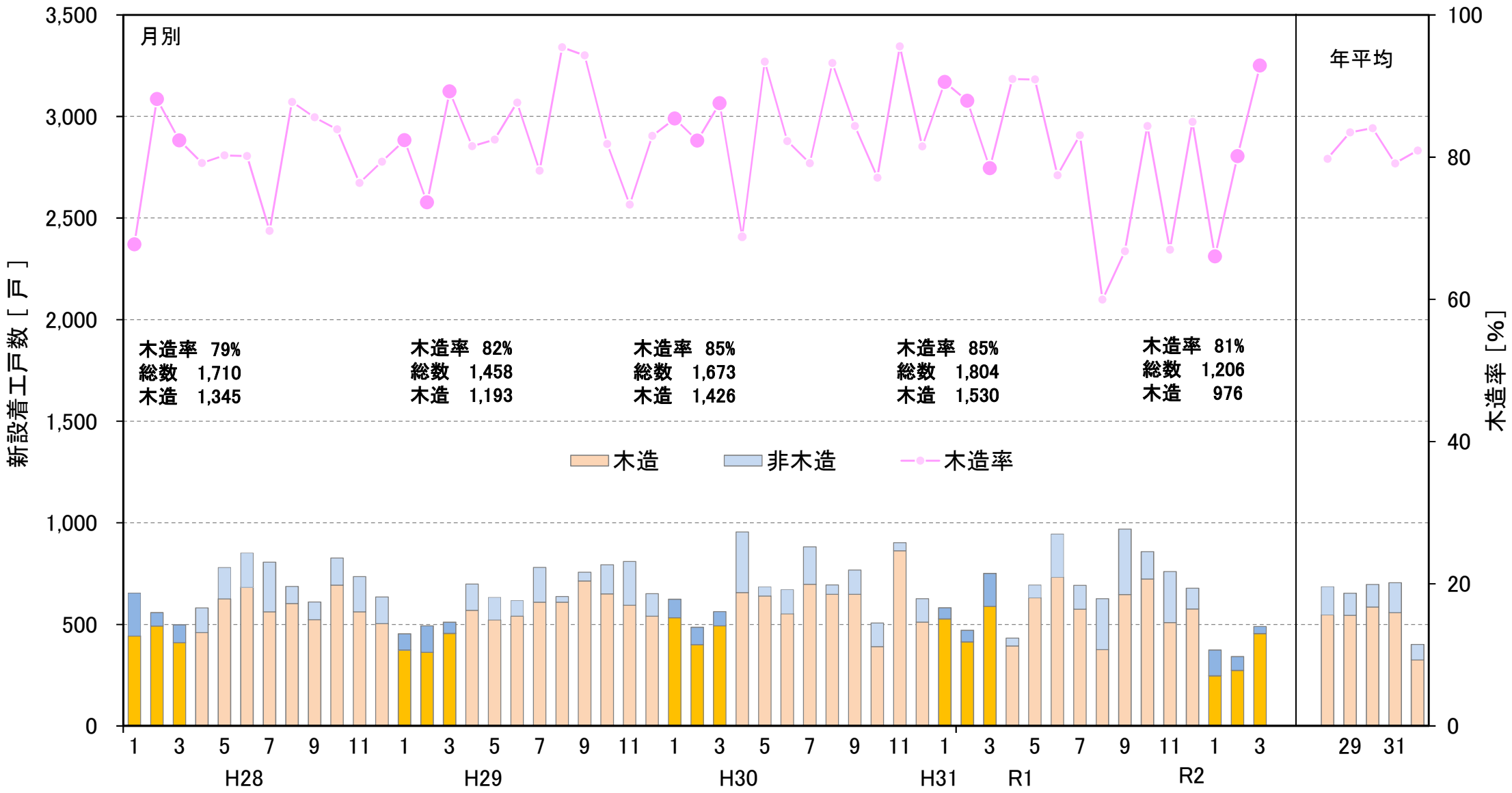
○ 青森県の令和2年1～3月期の新設住宅着工数は、昨年同期より252戸減少した。  
この期間の木造は12戸減少し、木造率は17%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# ■ 岩手県の新設住宅着工戸数の推移 (平成28年1月～令和2年3月)

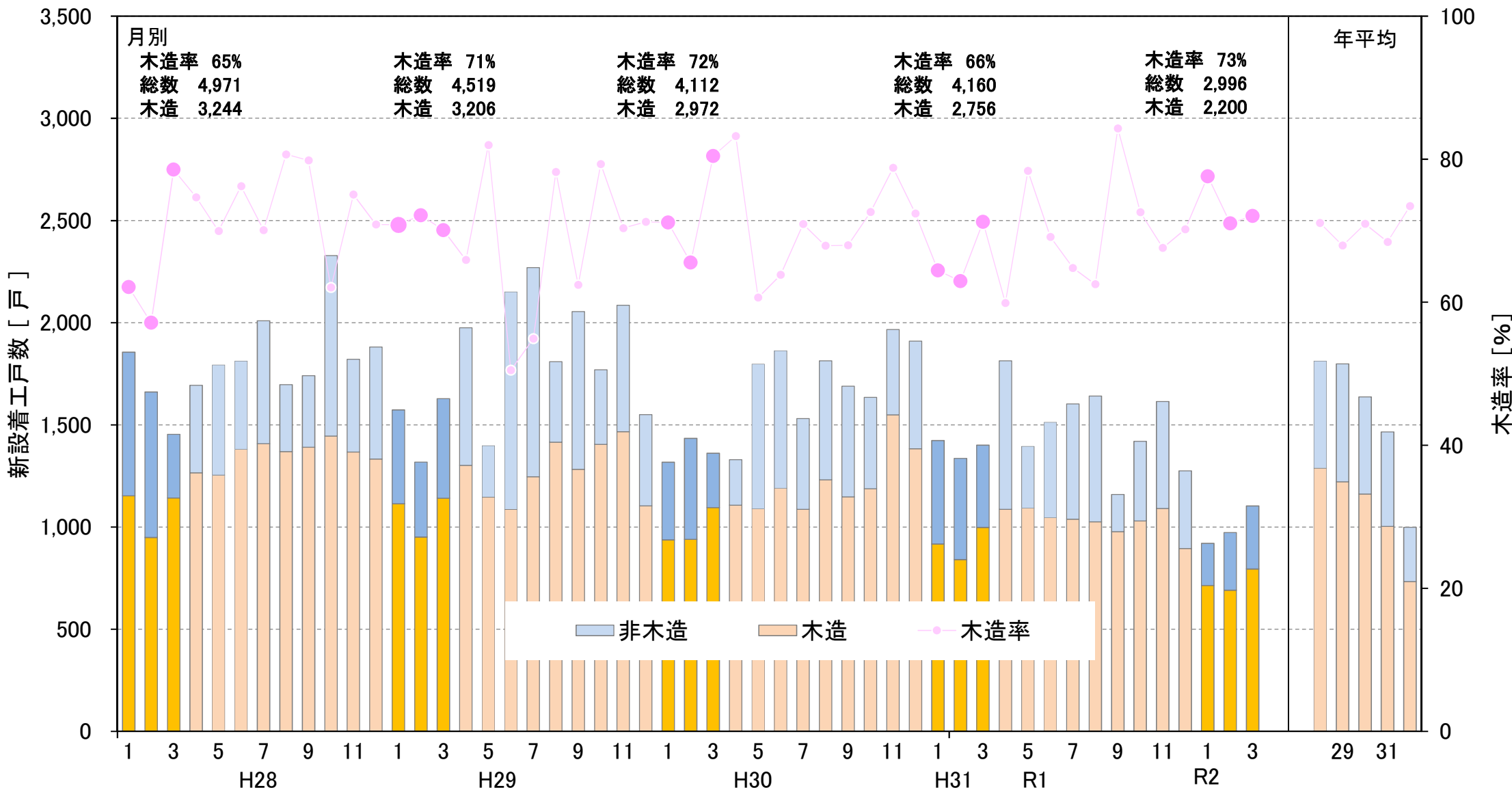
○ 岩手県の令和2年1～3月期の新設住宅着工数は、昨年同期より598戸減少した。  
この期間の木造は554戸減少し、木造率は4%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# 宮城県の新設住宅着工戸数の推移 (平成28年1月～令和2年3月)

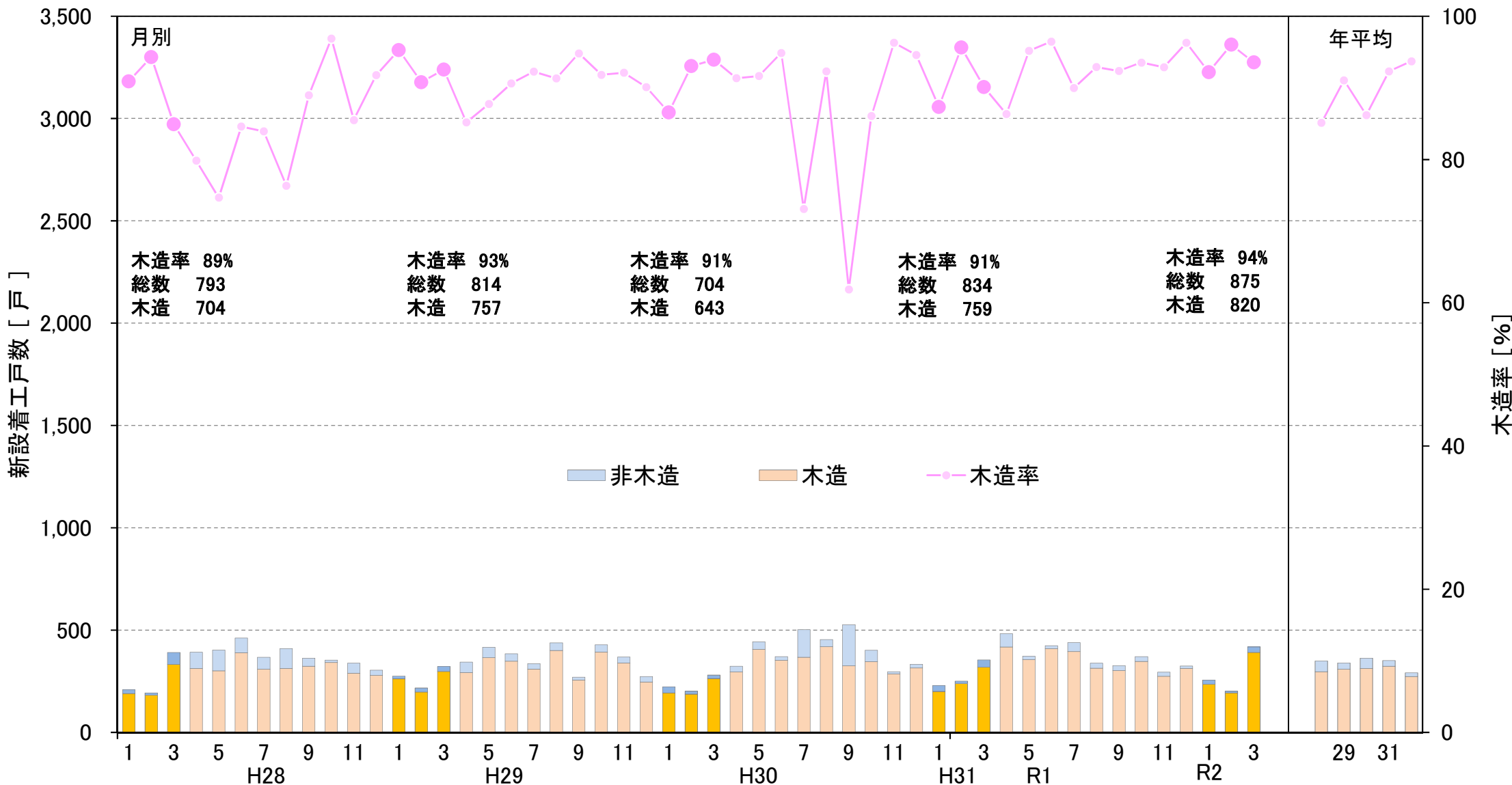
○ 宮城県の令和2年1～3月期の新設住宅着工数は、昨年同期より1,164戸減少した。  
この期間の木造は556戸減少し、木造率は7%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# ■ 秋田県の新設住宅着工戸数の推移 (平成28年1月～令和2年3月)

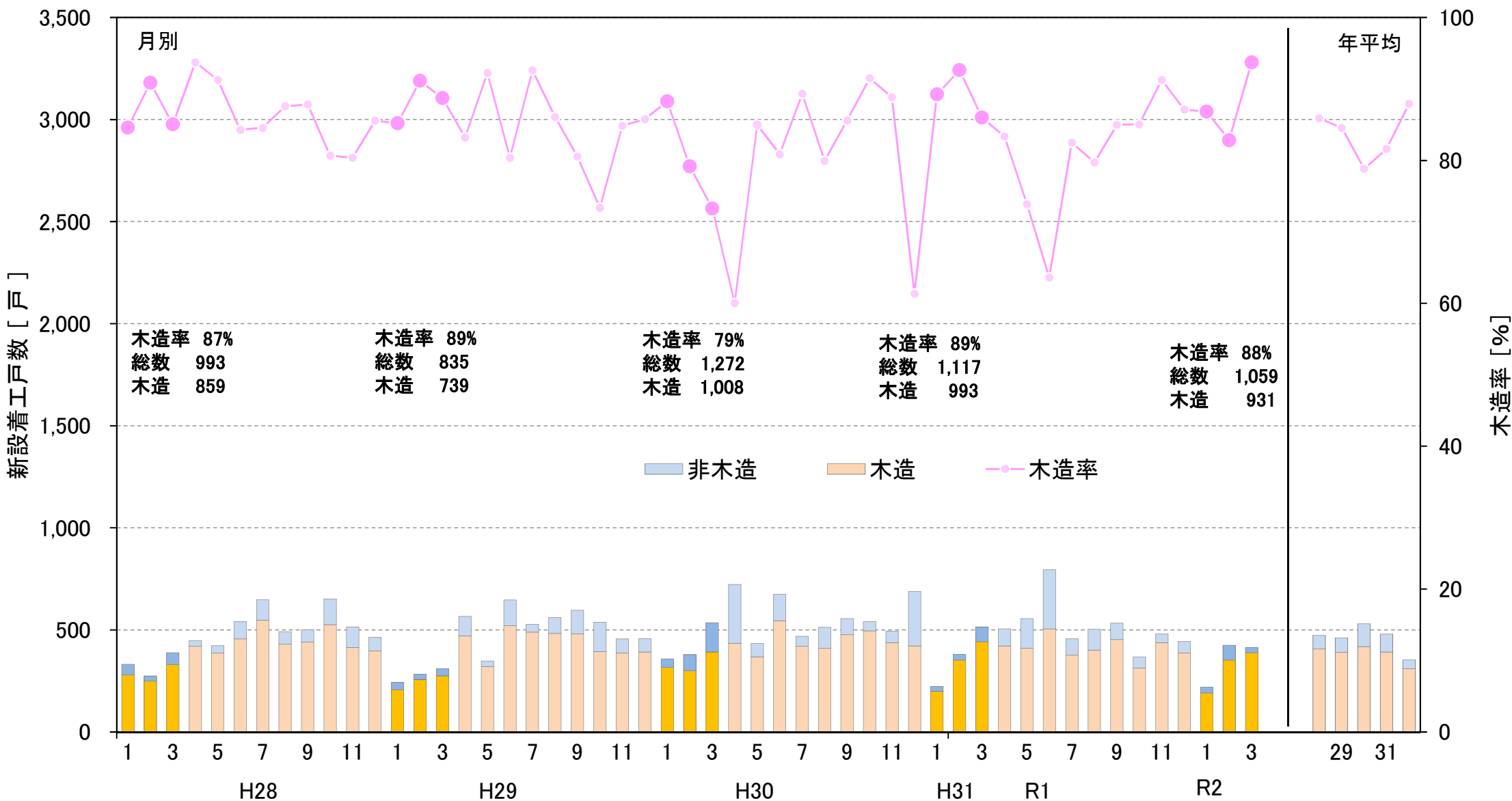
○ 秋田県の令和2年1～3月期の新設住宅着工数は、昨年同期より41戸増加した。  
この期間の木造は61戸増加し、木造率は3%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# 山形県の新設住宅着工戸数の推移 (平成28年1月～令和2年3月)

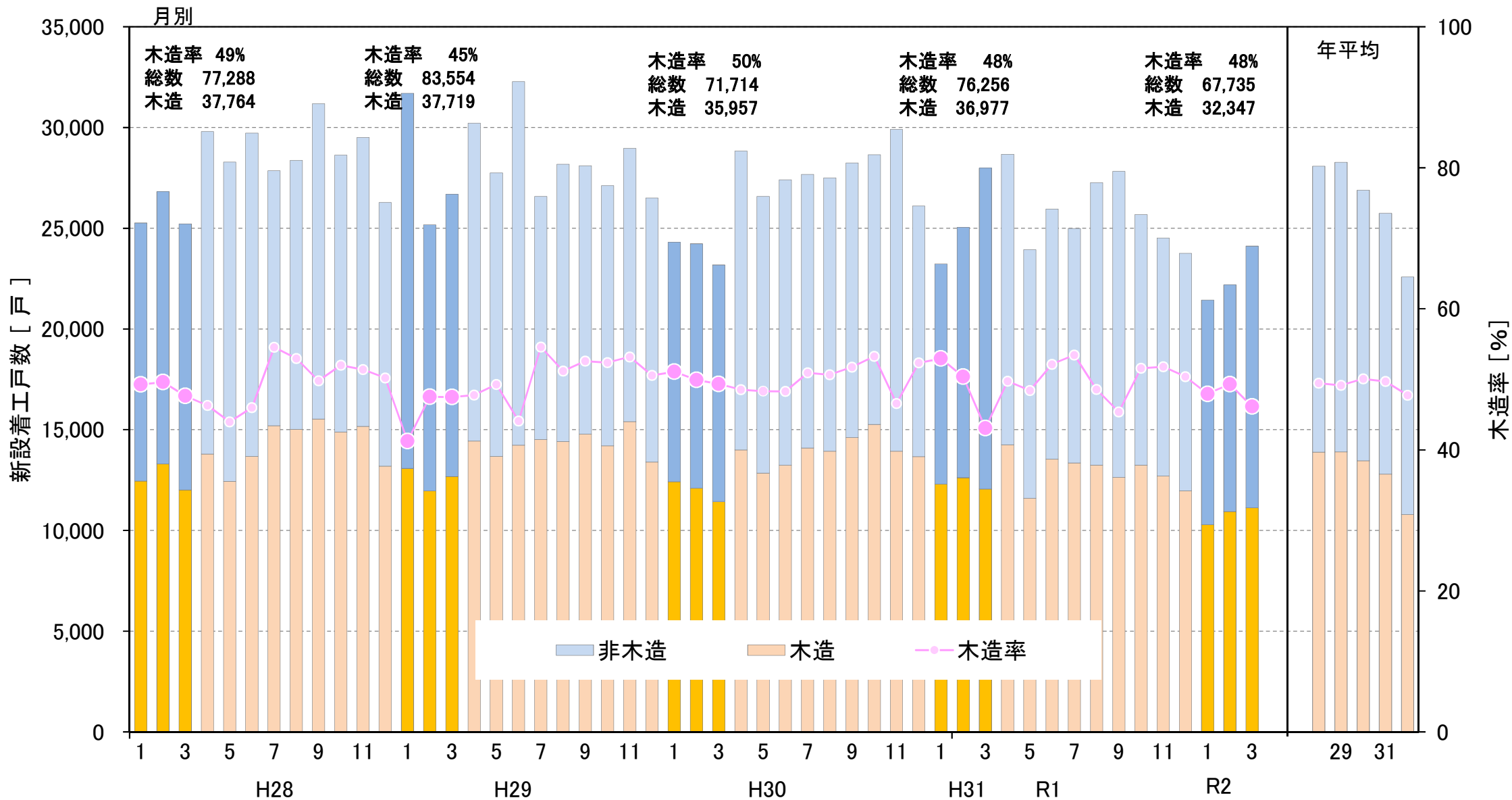
○ 山形県の令和2年1～3月期の新設住宅着工数は、去年同期より58戸減少した。  
この期間の木造は62戸減少し、木造率は1%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# ■ 埼玉、千葉、東京、神奈川の新設住宅着工戸数の推移 (平成28年1月～令和2年3月)

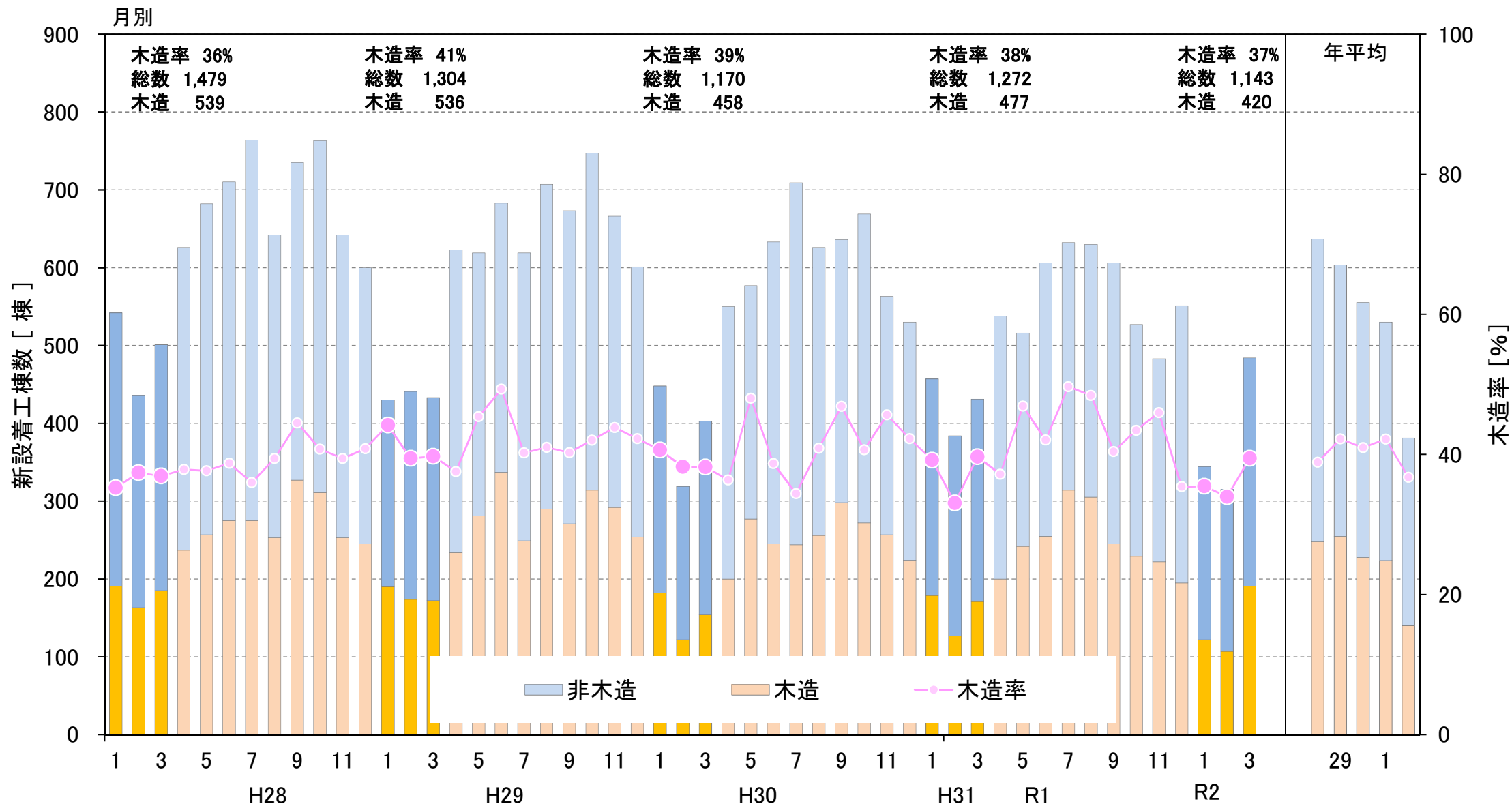
○ 関東主要都市の令和2年1～3月期の新設住宅着工数は、昨年同期より8,521戸減少した。  
この期間の木造は4,630戸減少し、木造率には変化はなかった。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# ■ 東北森林管理局管内5県の新設産業用建築物着工棟数の推移 (平成28年1月～令和2年3月)

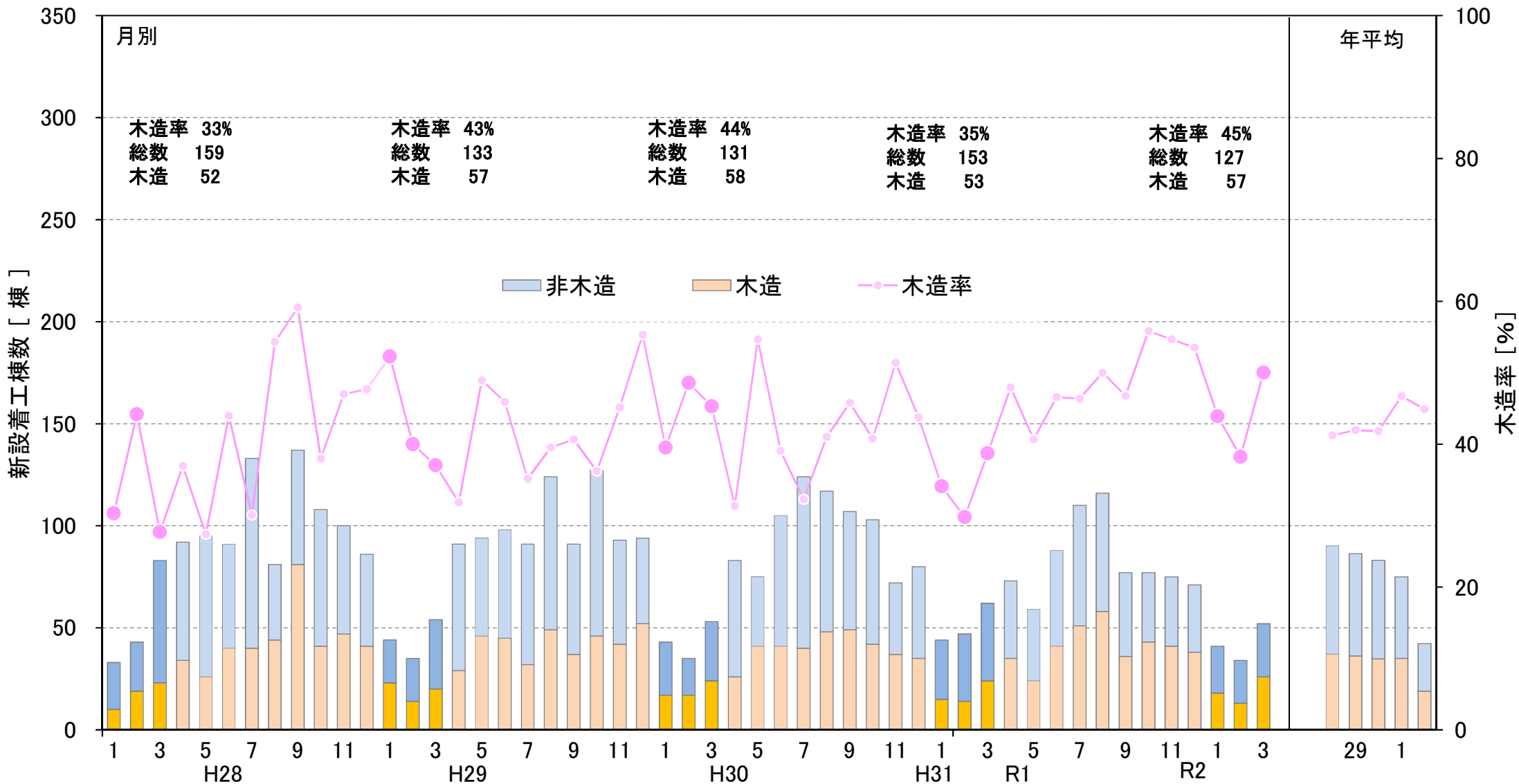
○ 東北5県の令和2年1～3月期の新設産業用建築物着工数は、昨年同期より129棟減少した。  
この期間の木造は昨年同期より57棟減少し、木造率は1%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# 青森県の新設産業用建築物着工棟数の推移 (平成28年1月～令和2年3月)

○ 青森県の令和2年1～3月期の新設産業用建築物着工数は、昨年同期より26棟減少した。  
この期間の木造は4棟増加し、木造率は10%増加した。

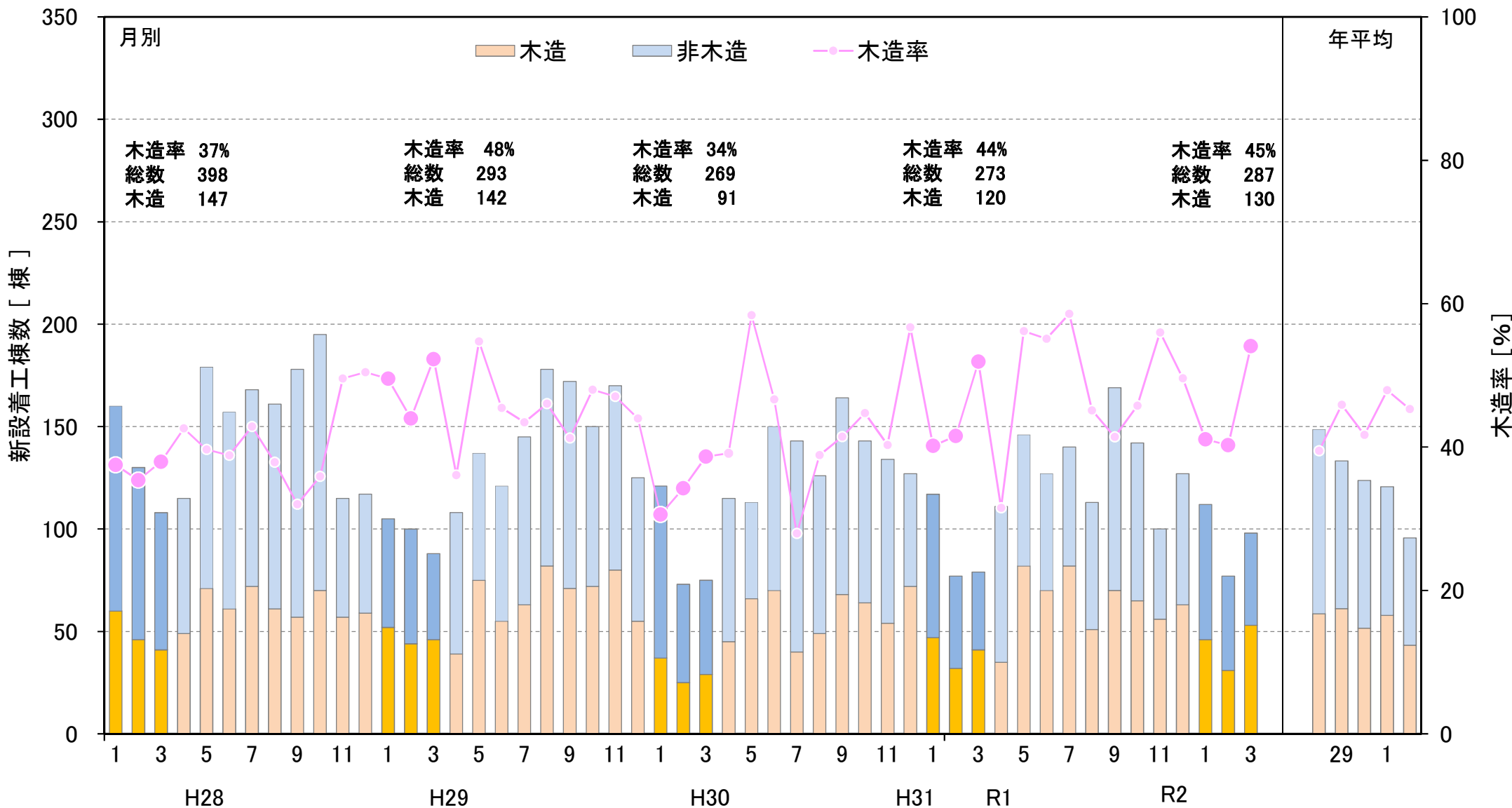


出典：国土交通省「住宅着工統計」



# ■ 岩手県の新設産業用建築物着工棟数の推移 (平成28年1月～令和2年3月)

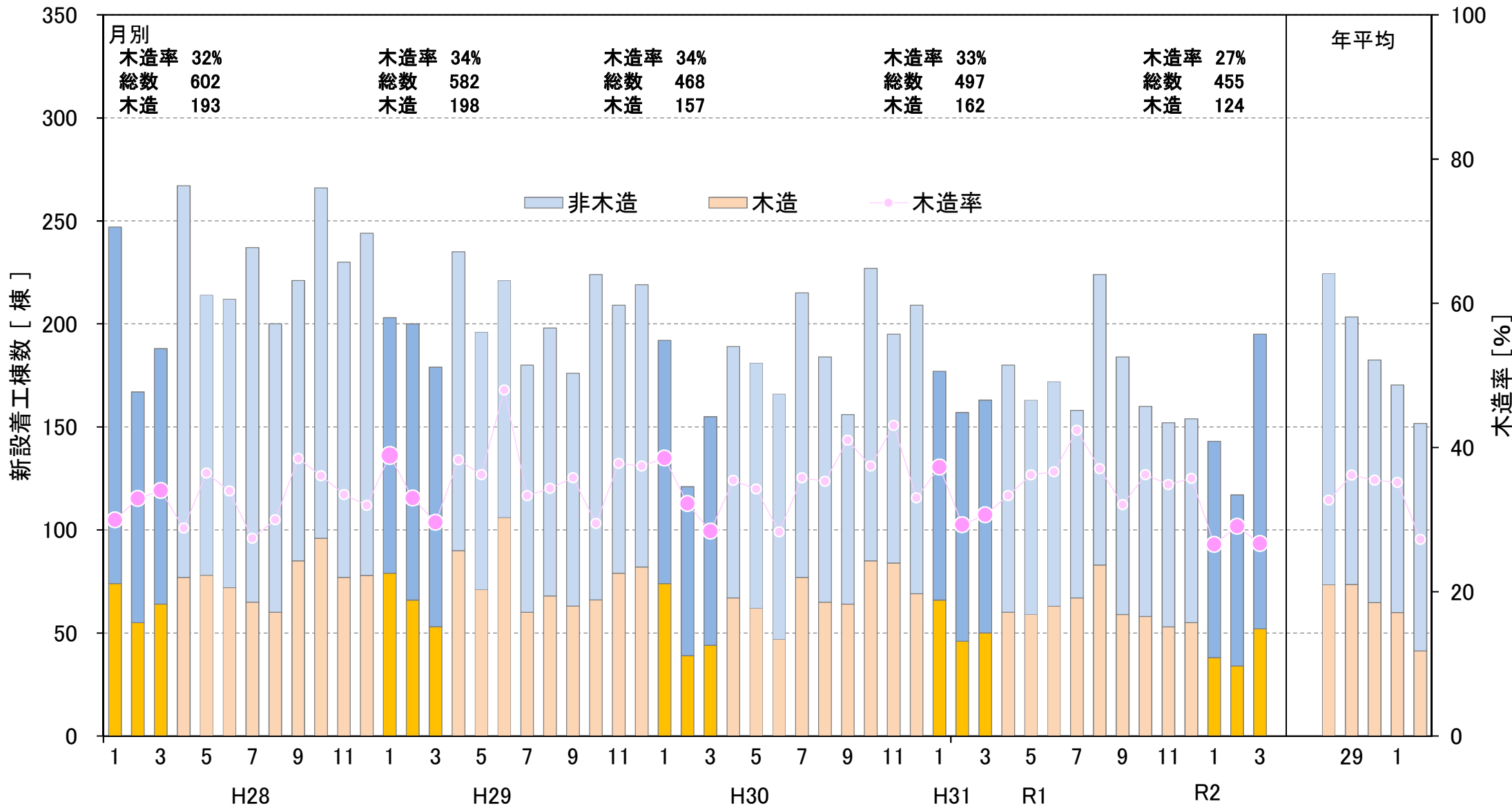
○ 岩手県の令和2年1～3月期の新設産業用建築物着工数は、昨年同期より14棟増加した。この期間の木造は10棟増加し、木造率は1%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# 宮城県の新設産業用建築物着工棟数の推移 (平成28年1月～令和2年3月)

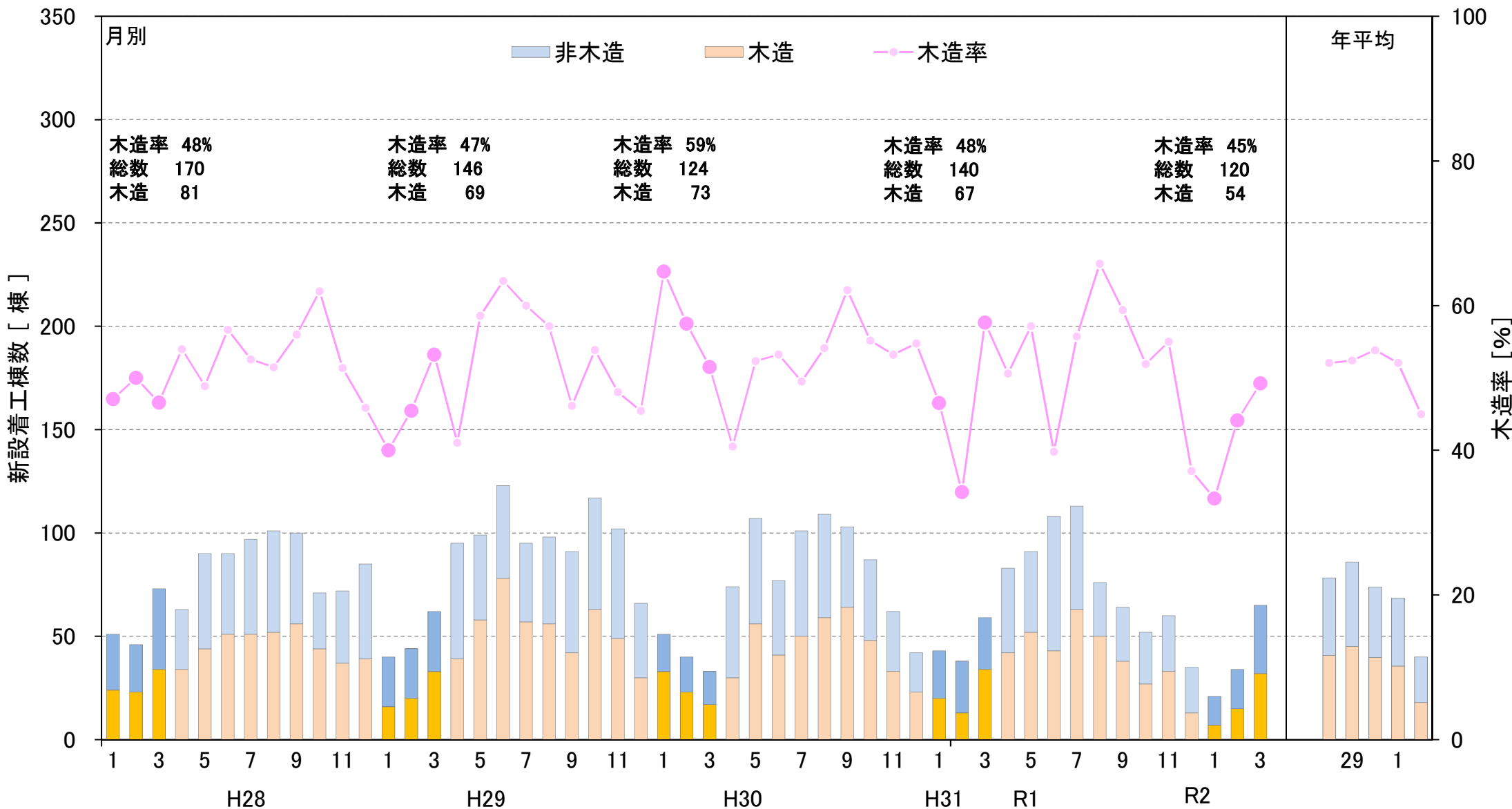
○ 宮城県の令和2年1～3月期の新設産業用建築物着工数は、昨年同期より42棟減少した。この期間の木造は38棟減少し、木造率は6%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# ■ 秋田県の新設産業用建築物着工棟数の推移 (平成28年1月～令和2年3月)

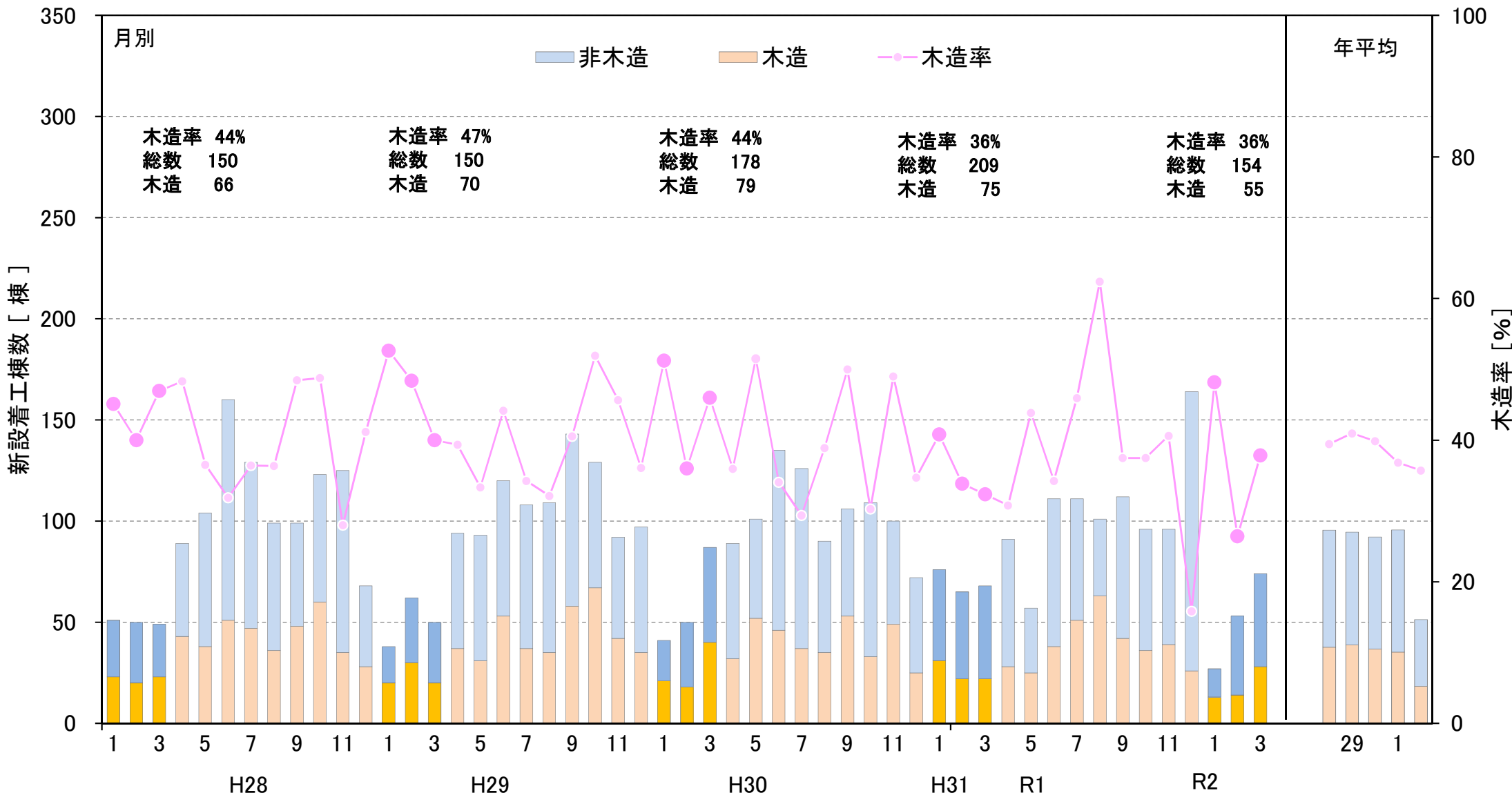
○ 秋田県の令和2年1～3月期の新設産業用建築物着工数は、昨年同期より20棟減少した。  
この期間の木造は13棟減少し、木造率は3%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# 山形県の新設産業用建築物着工棟数の推移 (平成28年1月～令和2年3月)

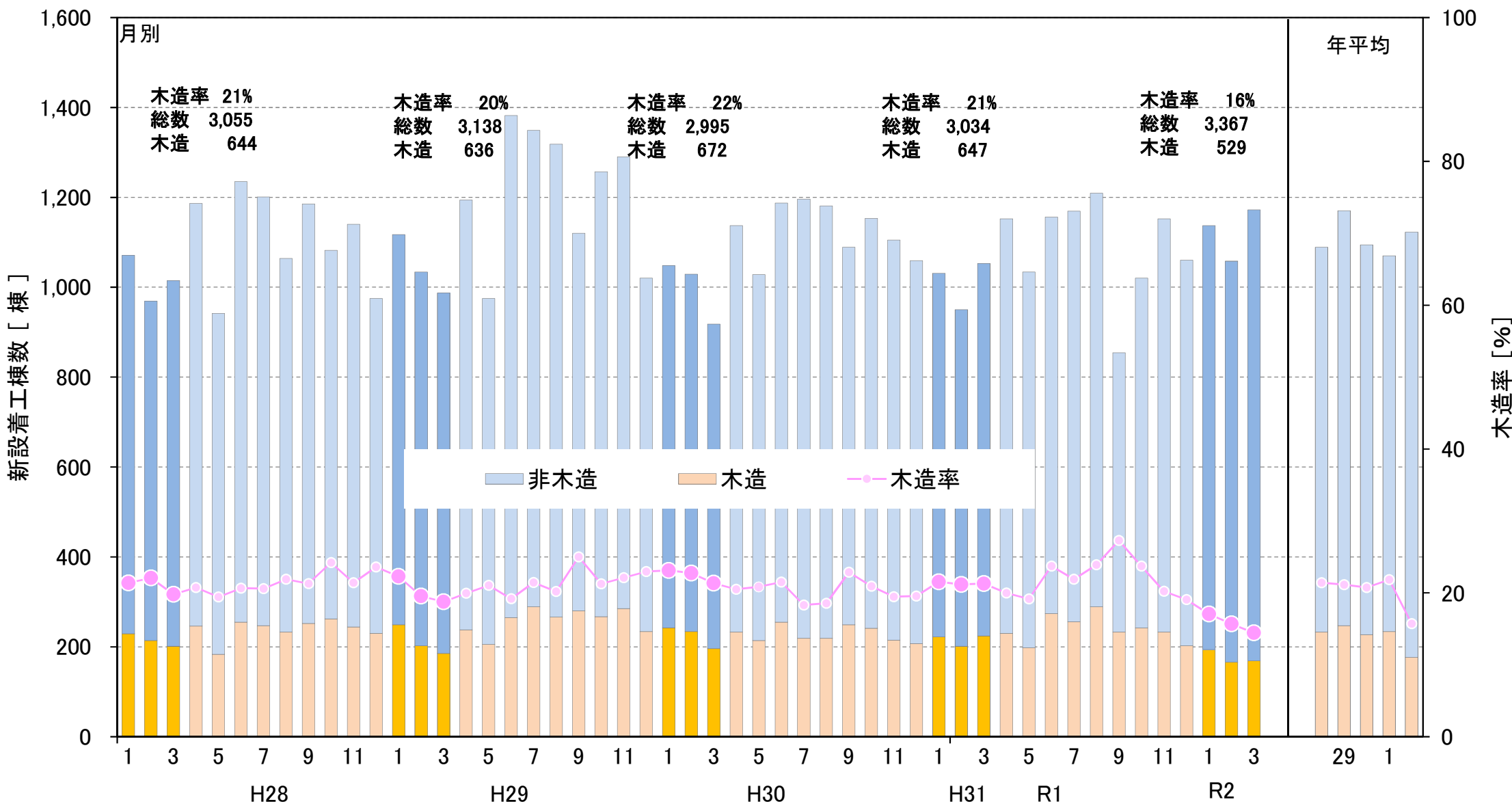
○ 山形県の令和2年1～3月期の新設産業用建築物着工数は、昨年同期より55棟減少した。この期間の木造は20棟減少し、木造率に変化はなかった。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# ■ 埼玉、千葉、東京、神奈川の新設産業用建築物着工棟数の推移 (平成28年1月～令和2年3月)

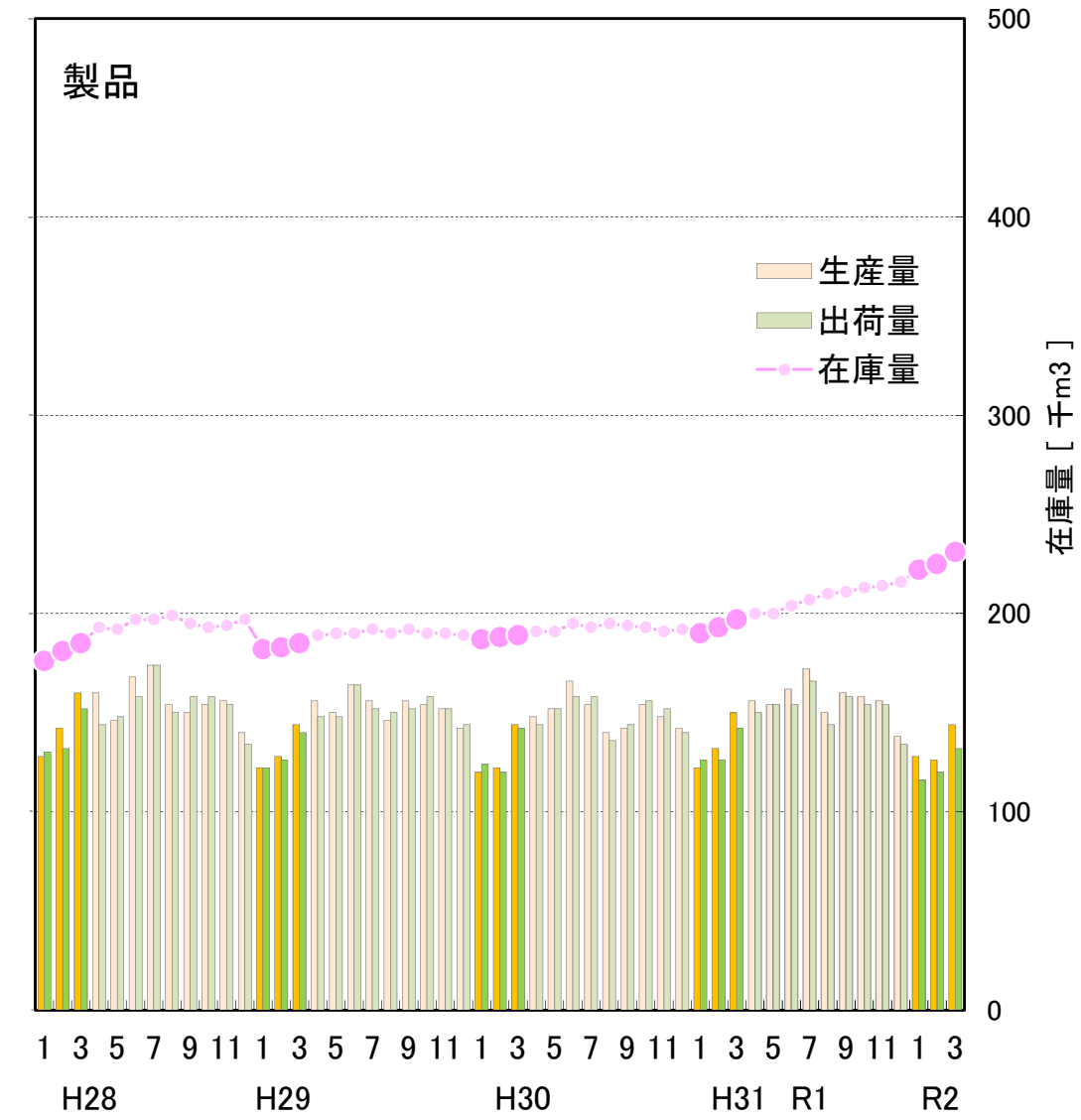
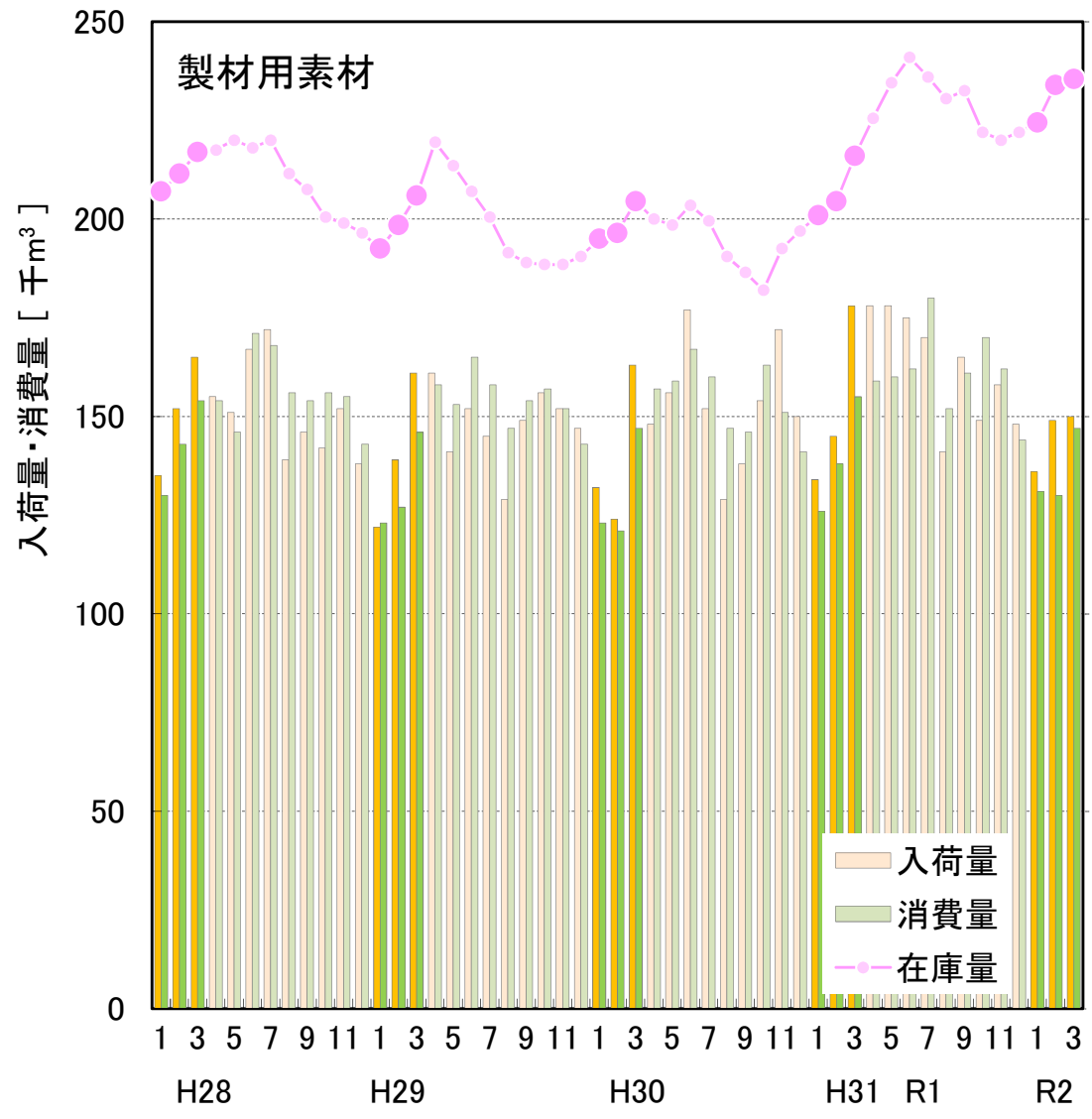
○ 関東主要都市の令和2年1～3月期の新設産業用建築物着工数は、昨年同期より333棟増加した。この期間の木造は118棟減少し、木造率は5%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# ■ 東北5県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成28年1月～令和2年3月）

○ 東北5県の製材用素材の令和2年1～3月の入荷量は昨年同期比－5%、消費量は－3%、在庫量は3月比＋9%。  
 ○ 製材品の令和2年1～3月の生産量は昨年同期比－1%、出荷量は－7%、在庫量は3月比＋17%。

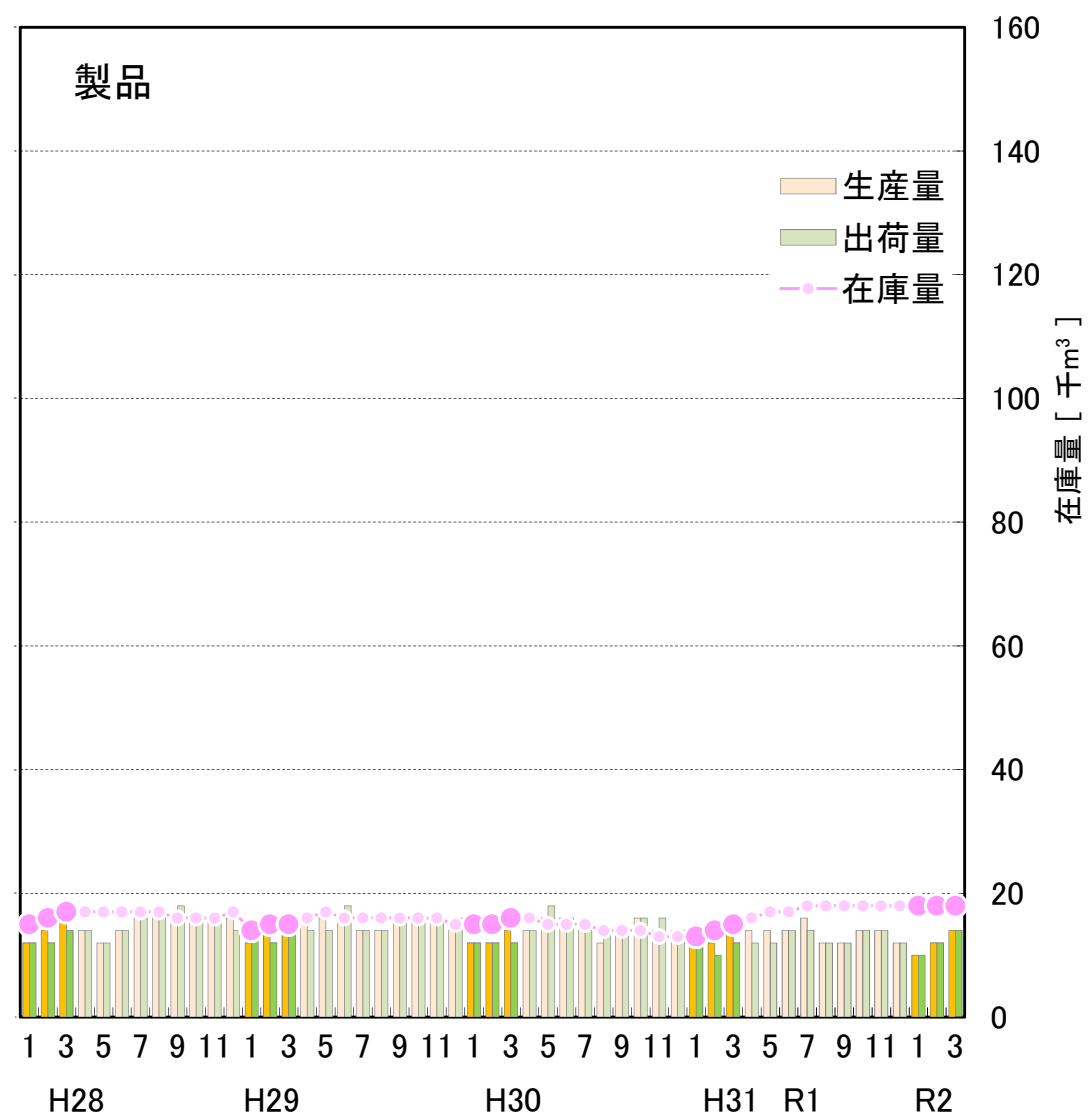
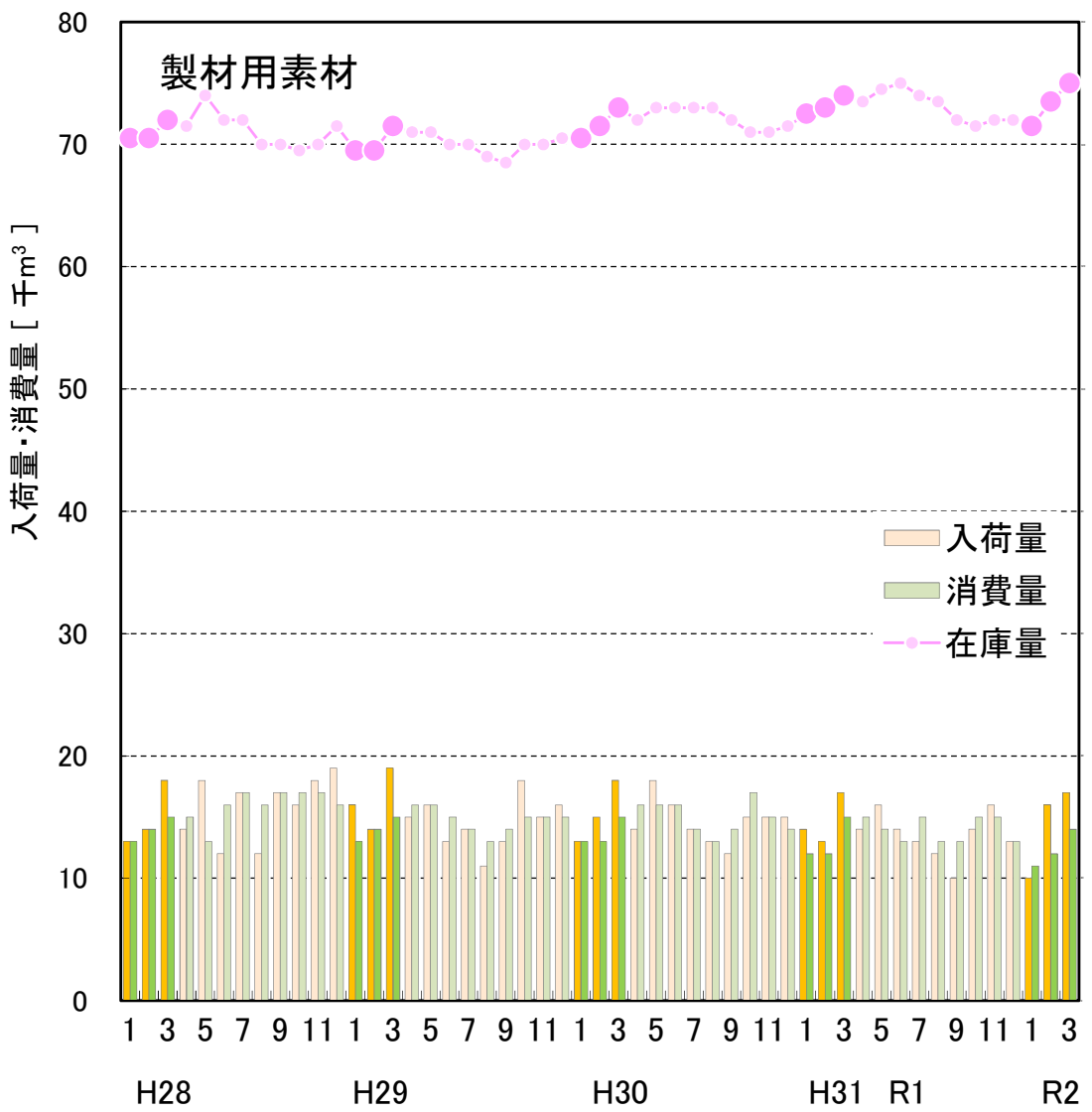


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

# 青森県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成28年1月～令和2年3月）

○ 製材用素材の令和2年1～3月の入荷量は昨年同期比－2%、消費量は－5%、在庫量は3月比＋1%。  
 ○ 製材品の令和2年1～3月の生産量は昨年同期比－5%、出荷量は＋6%、在庫量は3月比＋20%。

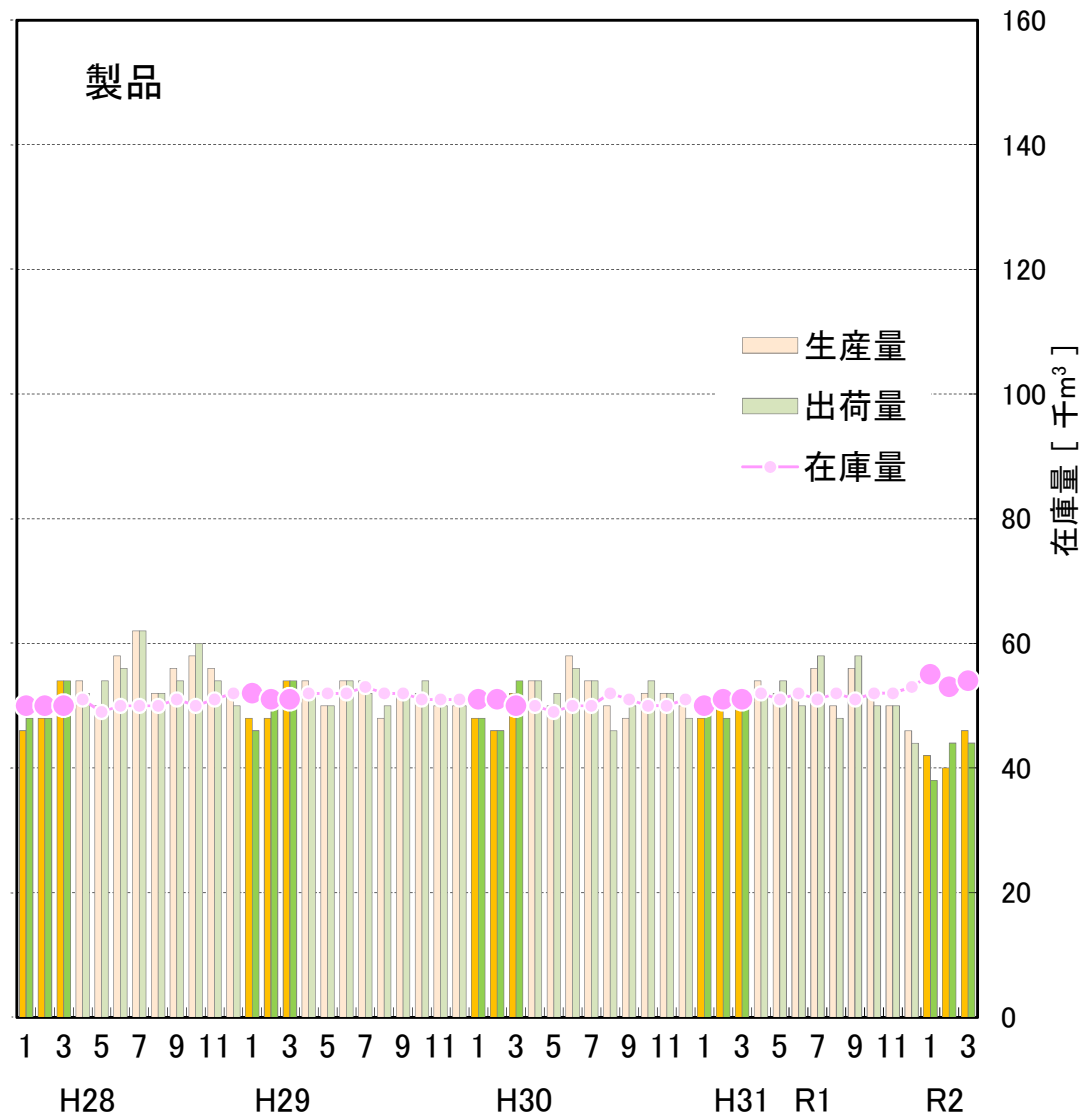
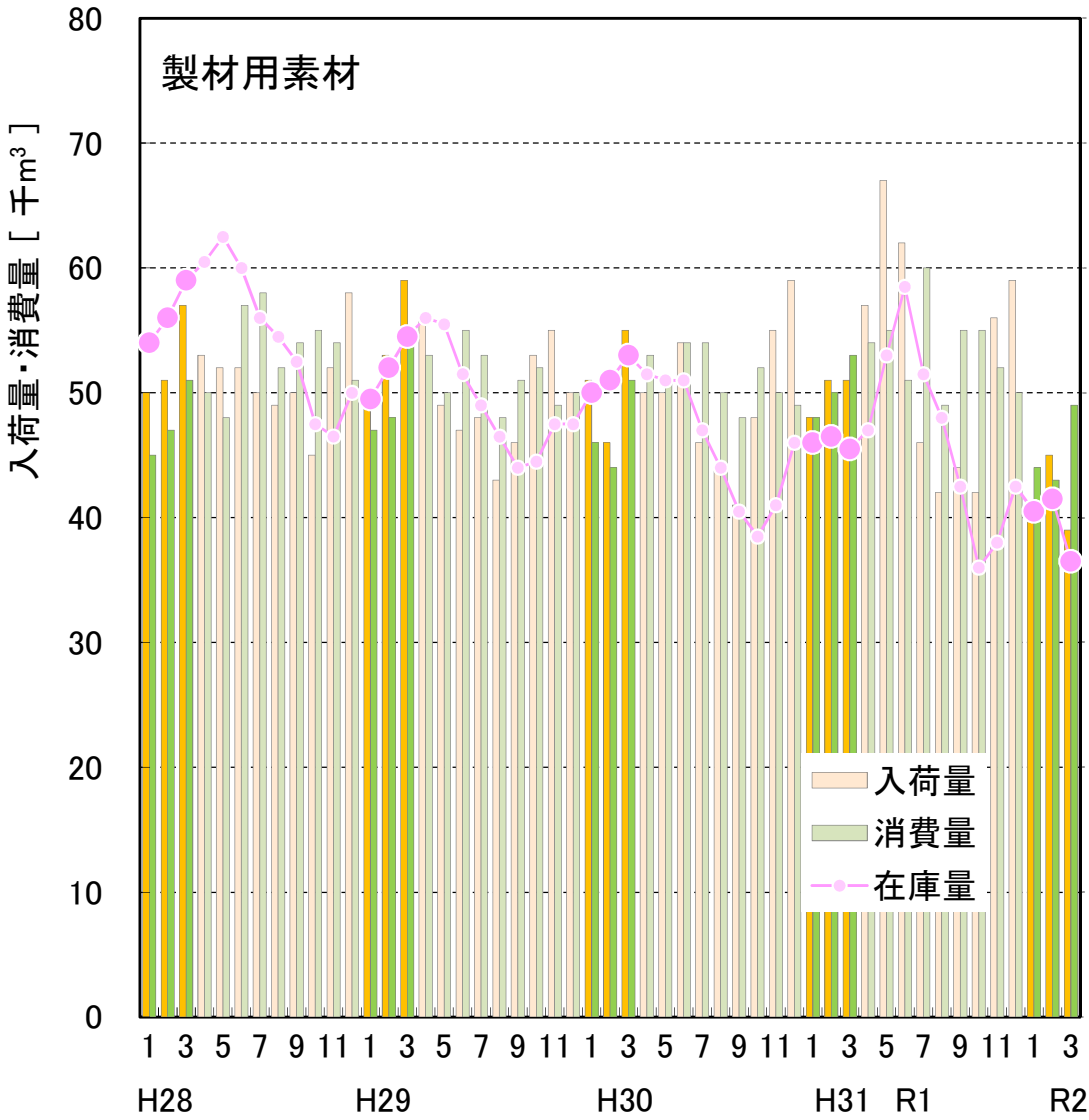


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

# 岩手県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成28年1月～令和2年3月）

○ 製材用素材の令和2年1～3月の入荷量は昨年同期比－17%、消費量は－10%、在庫量は3月比－20%。  
 ○ 製材品の令和2年1～3月の生産量は昨年同期比－14%、出荷量は－15%、在庫量は3月比＋6%。



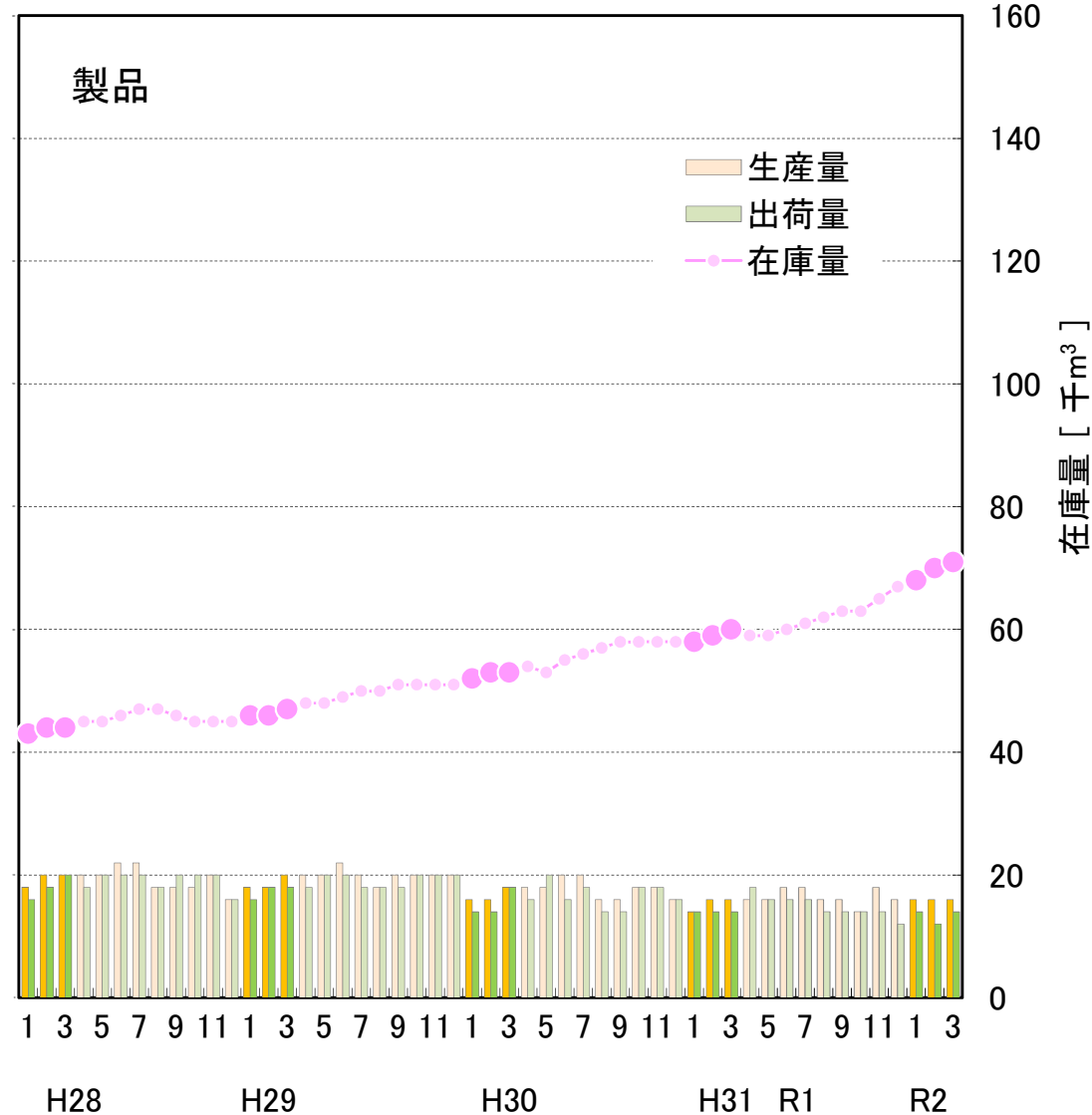
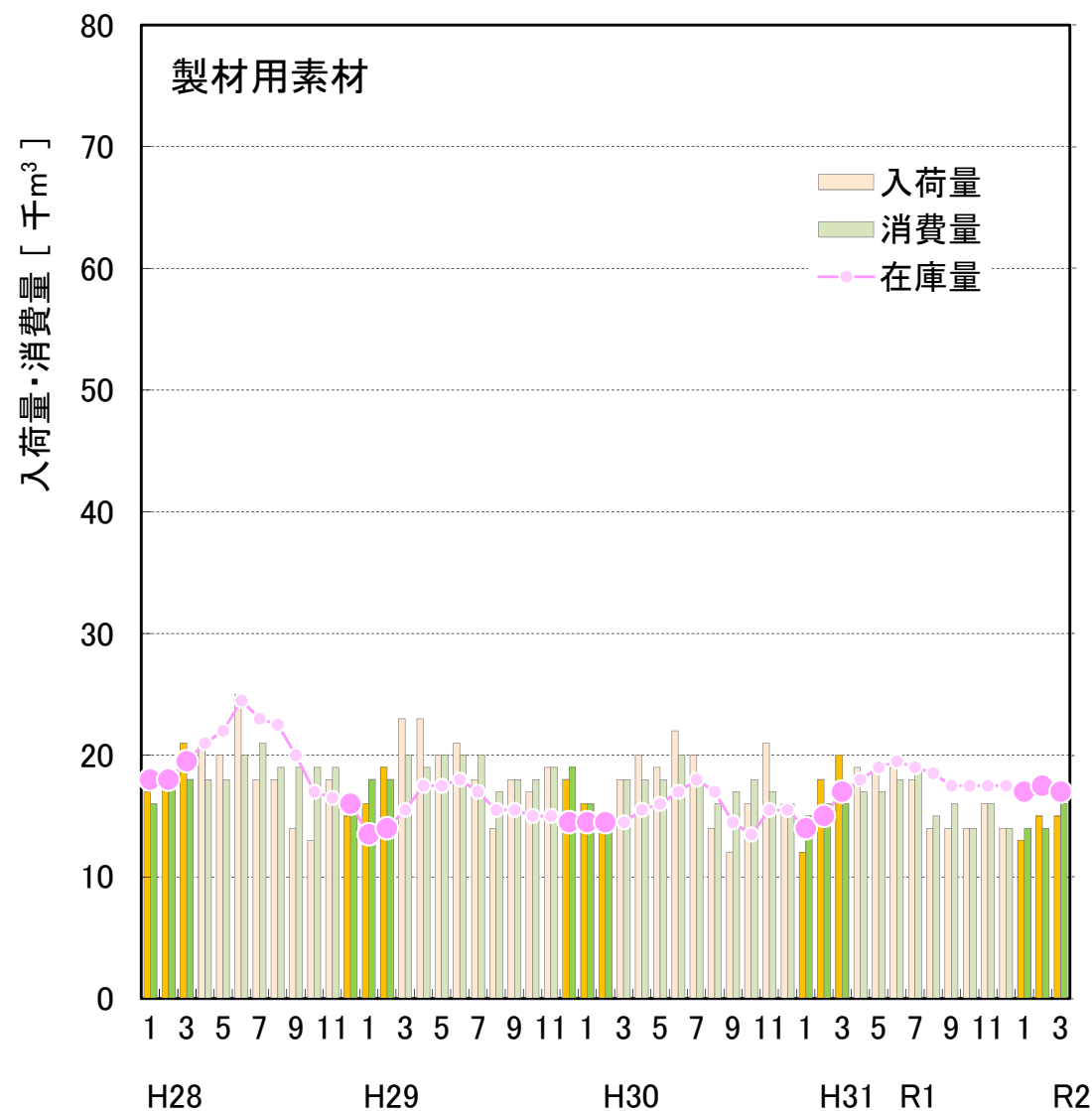
出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。



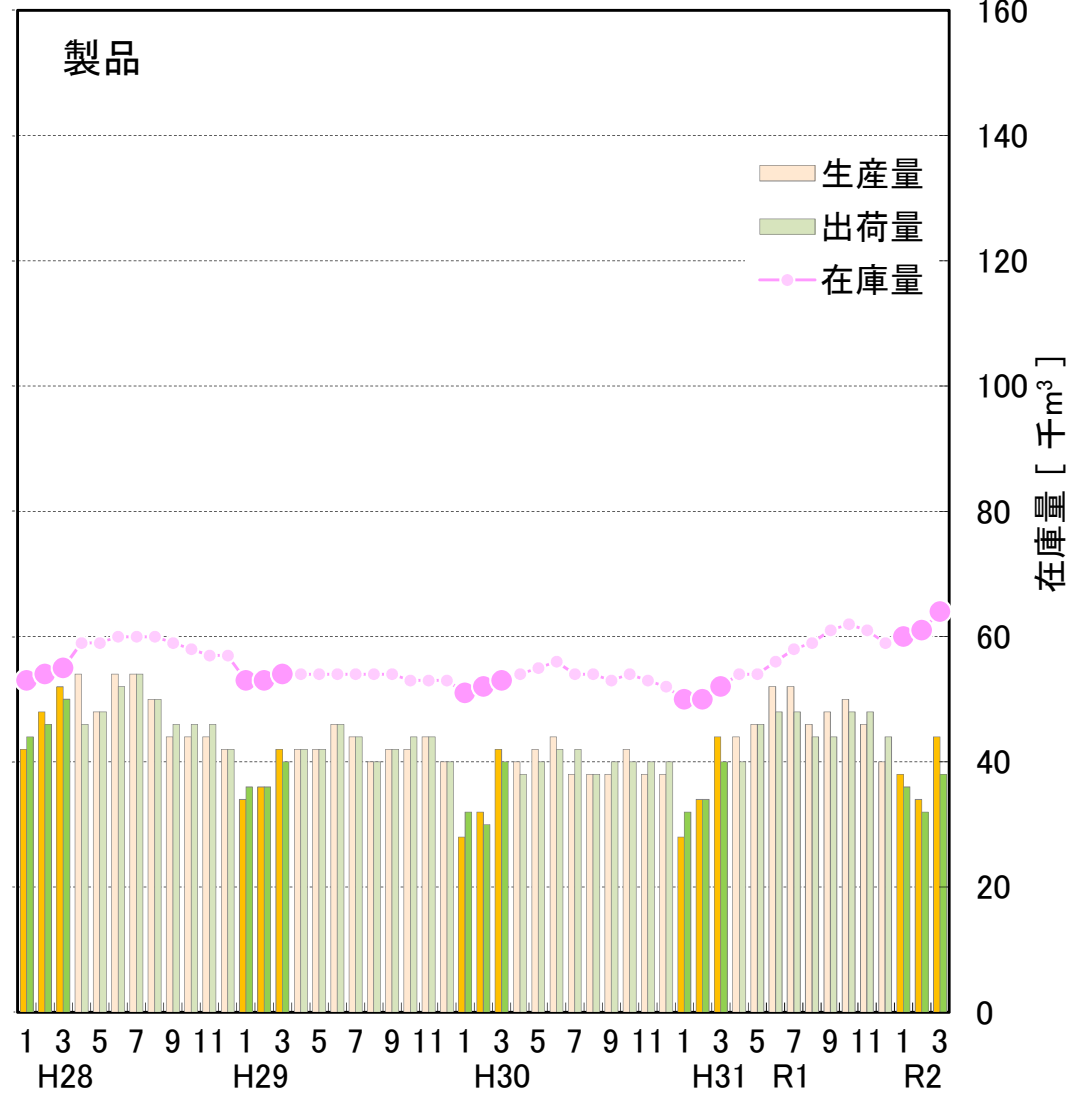
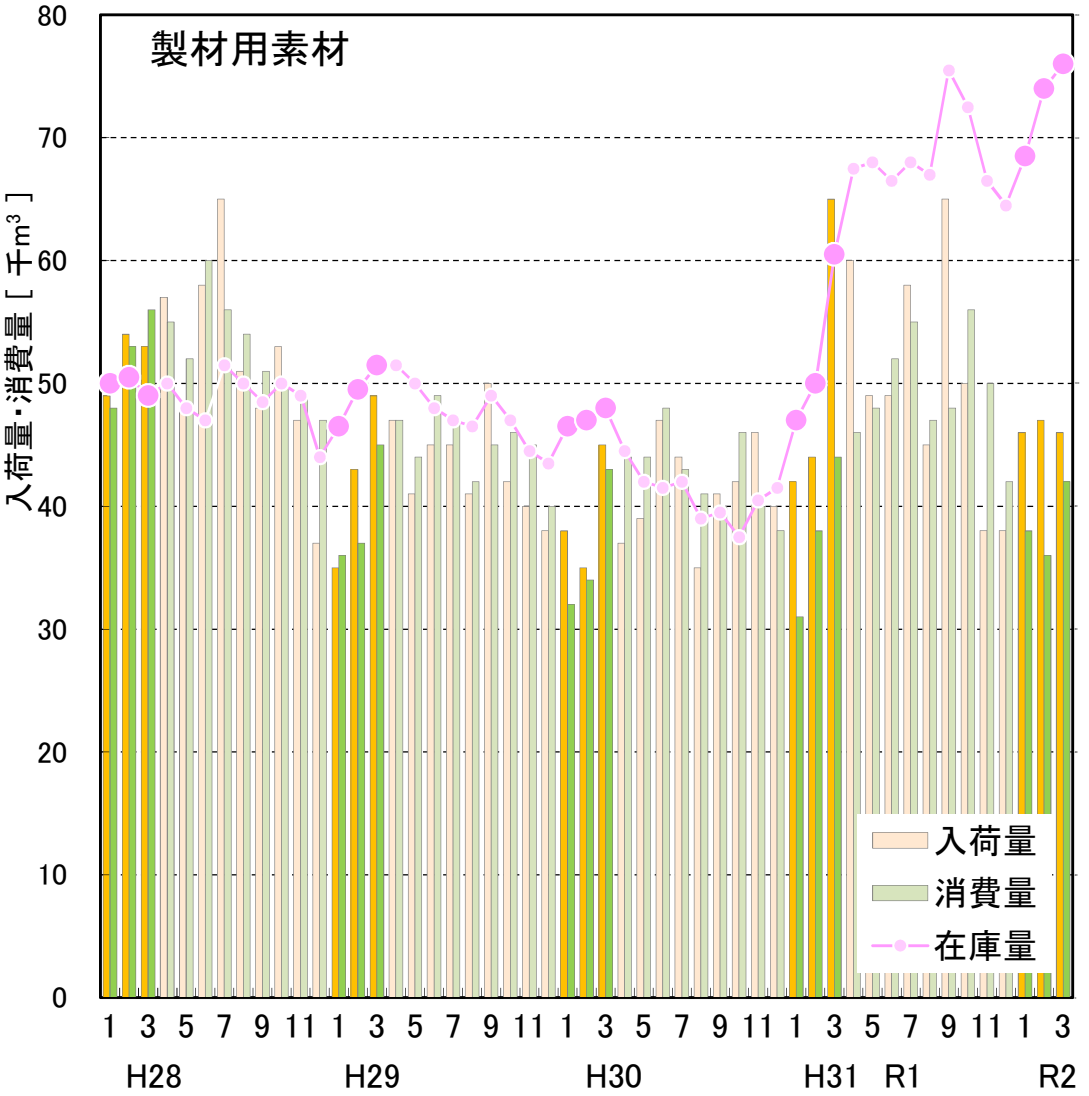
# ■ 宮城県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成28年1月～令和2年3月）

- 製材用素材の令和2年1～3月の入荷量は昨年同期比－14%、消費量は－6%、在庫量は3月比±0%。
- 製材品の令和2年1～3月の生産量は昨年同期比＋4%、出荷量は－5%、在庫量は3月比＋18%。



# ■ 秋田県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成28年1月～令和2年3月）

○ 製材用素材の令和2年1～3月の入荷量は昨年同期比－8%、消費量は＋3%、在庫量は3月比＋26%。  
 ○ 製材品の令和2年1～3月の生産量は昨年同期比＋9%、出荷量は±0%、在庫量は3月比＋23%。

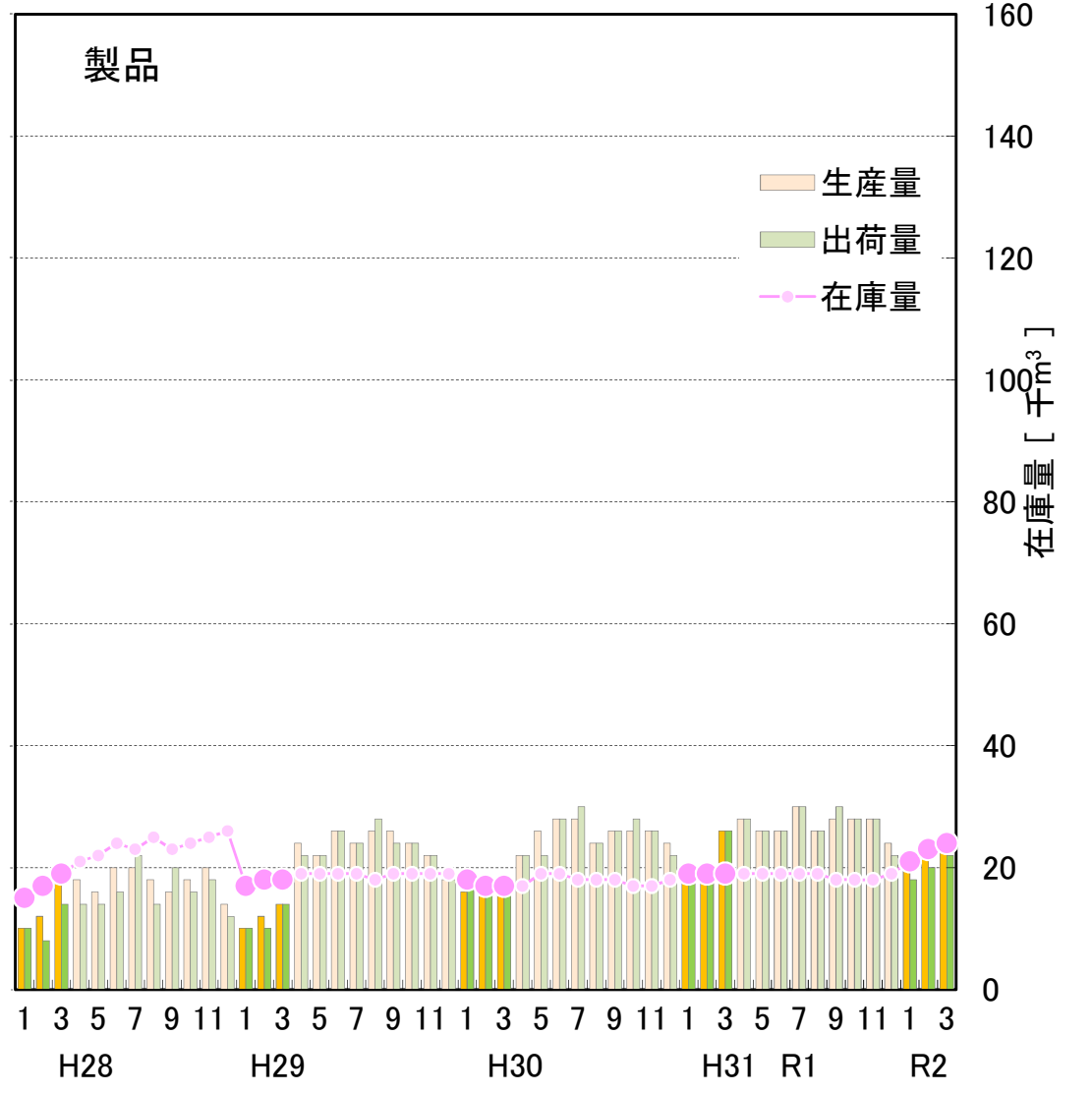
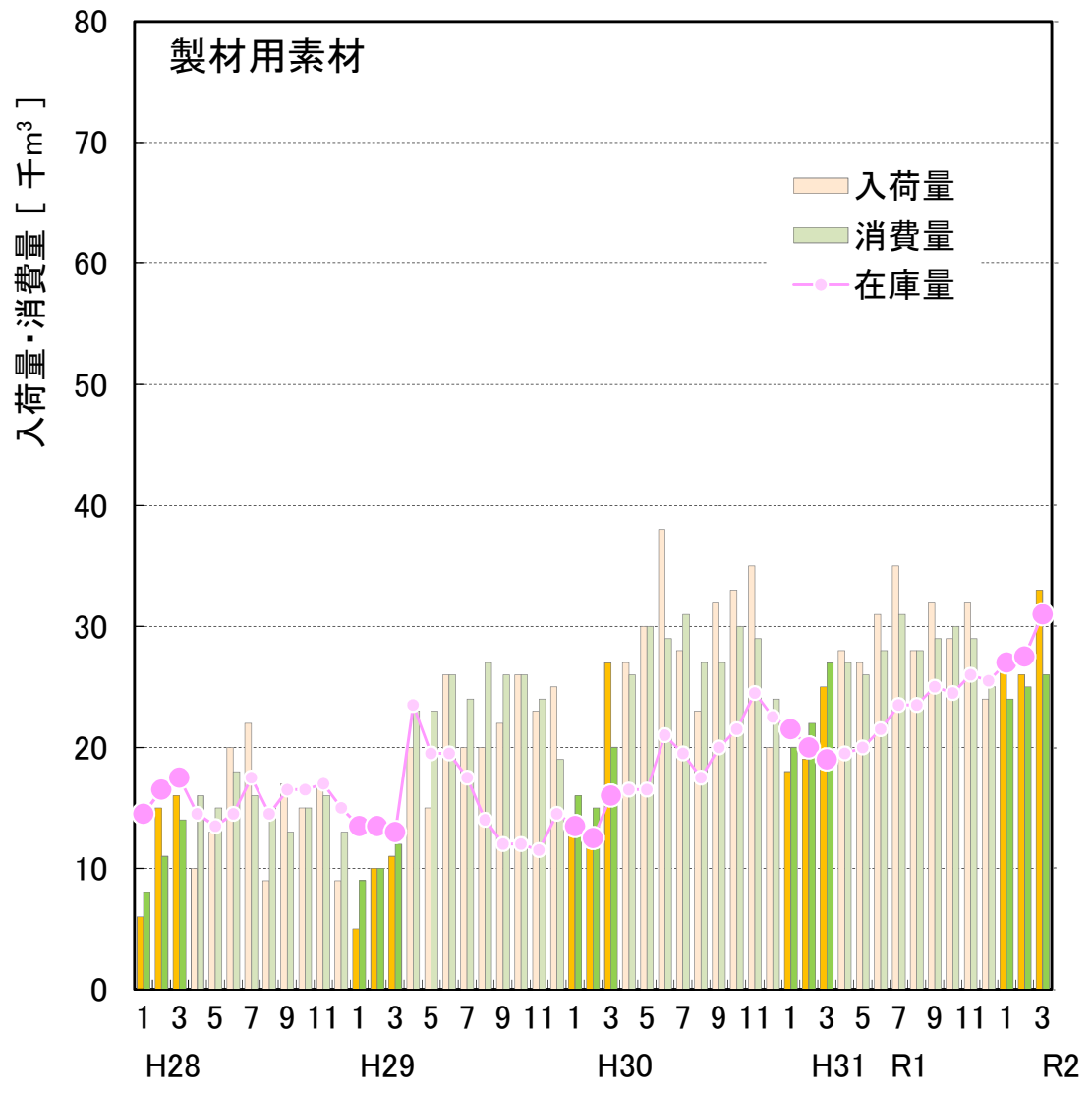


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

# 山形県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成28年1月～令和2年3月）

○ 製材用素材の令和2年1～3月の入荷量は昨年同期比+39%、消費量は+9%、在庫量は3月比+63%。  
 ○ 製材品の令和2年1～3月の生産量は昨年同期比+6%、出荷量は-6%、在庫量は3月比+26%。

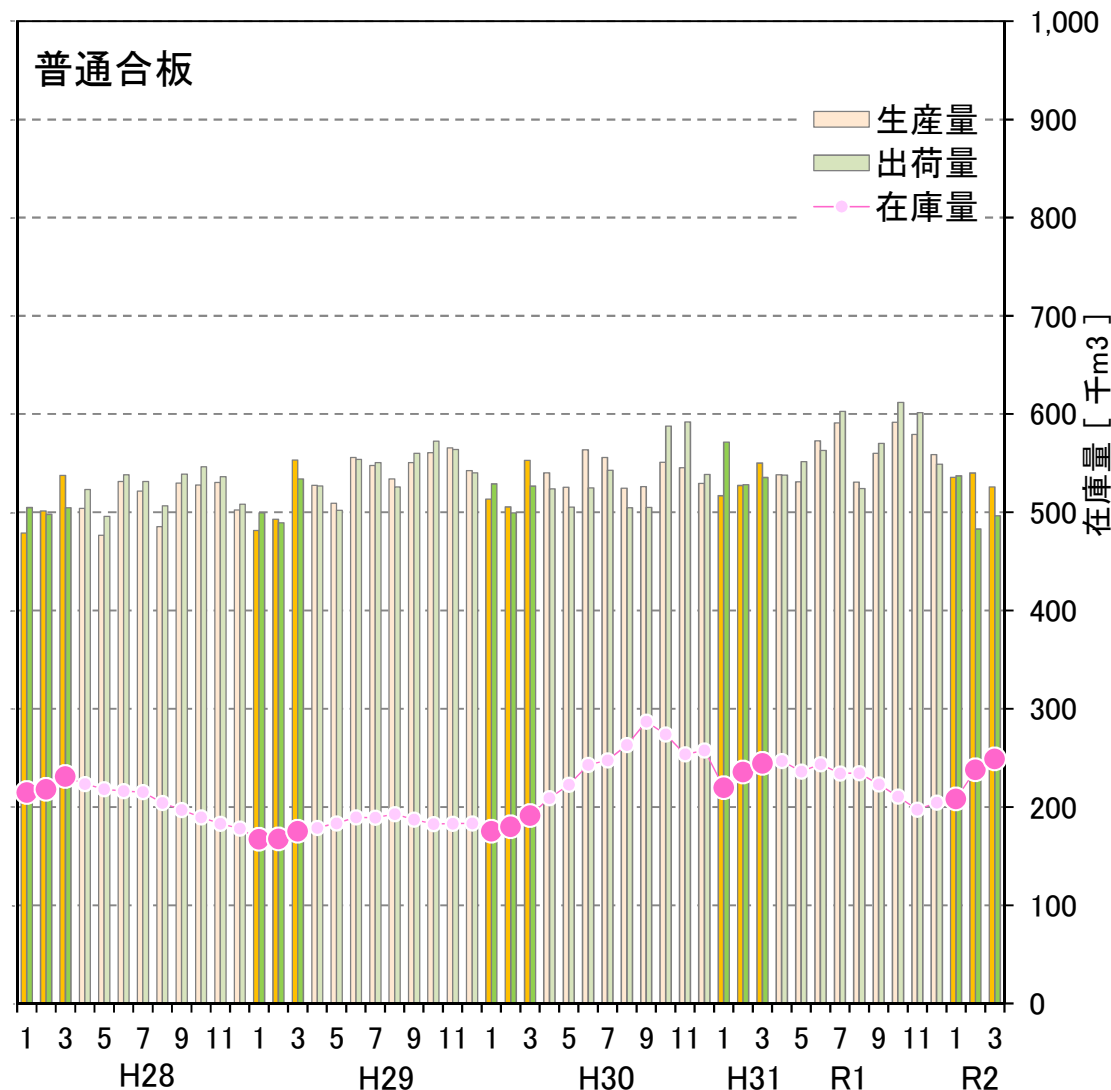
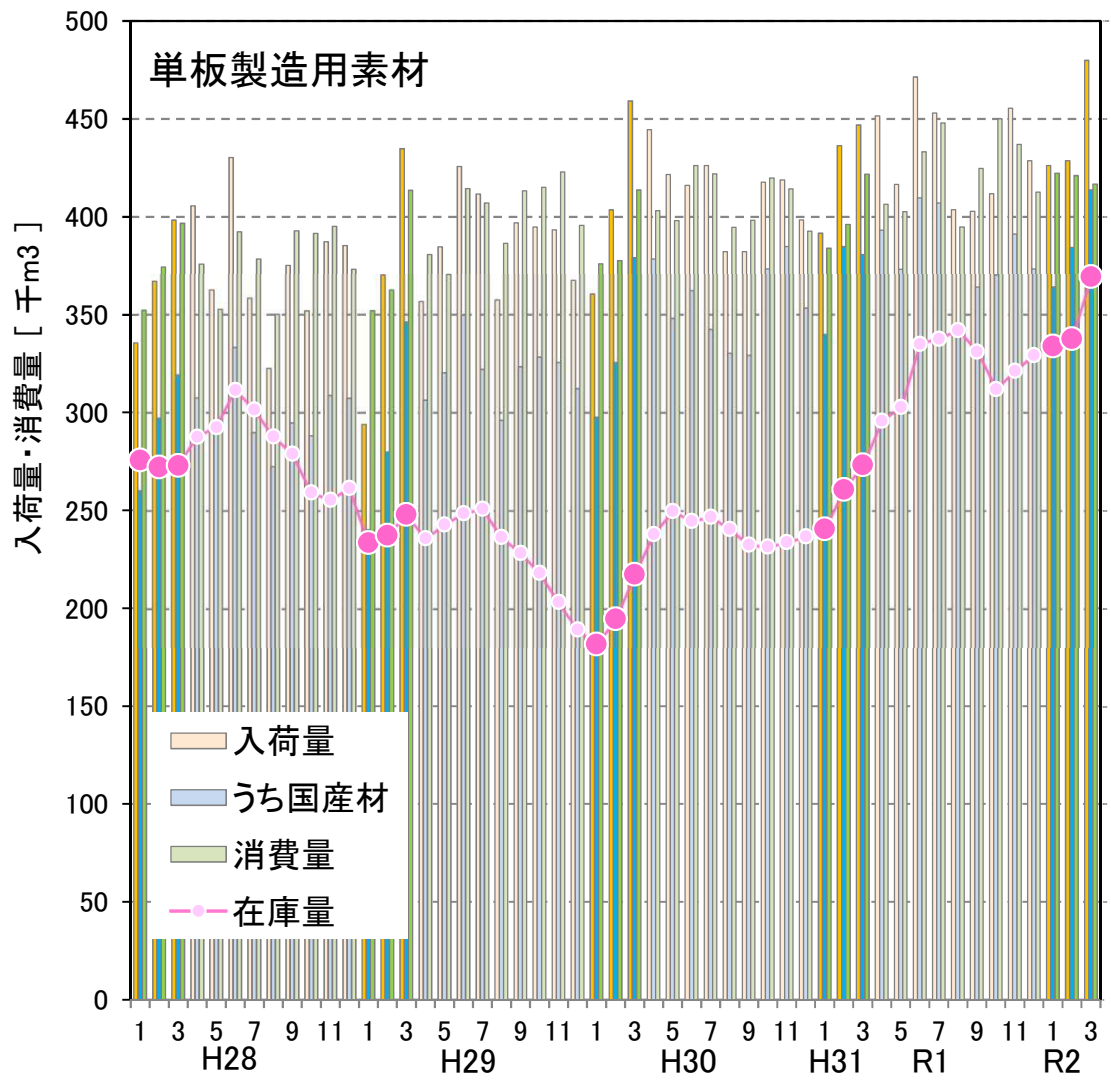


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

# ■ 全国の単板製造用素材・普通合板の生産量等の推移（平成28年1月～令和2年3月）

- 単板製造用素材の令和2年1～3月期の入荷量は昨年同期比+5%、うち国産材は+5%、消費量は+5%、在庫量は3月比+35%。
- 普通合板の令和2年1～3月期の生産量は昨年同期比±0%、出荷量は-7%、在庫量については3月比+2%。



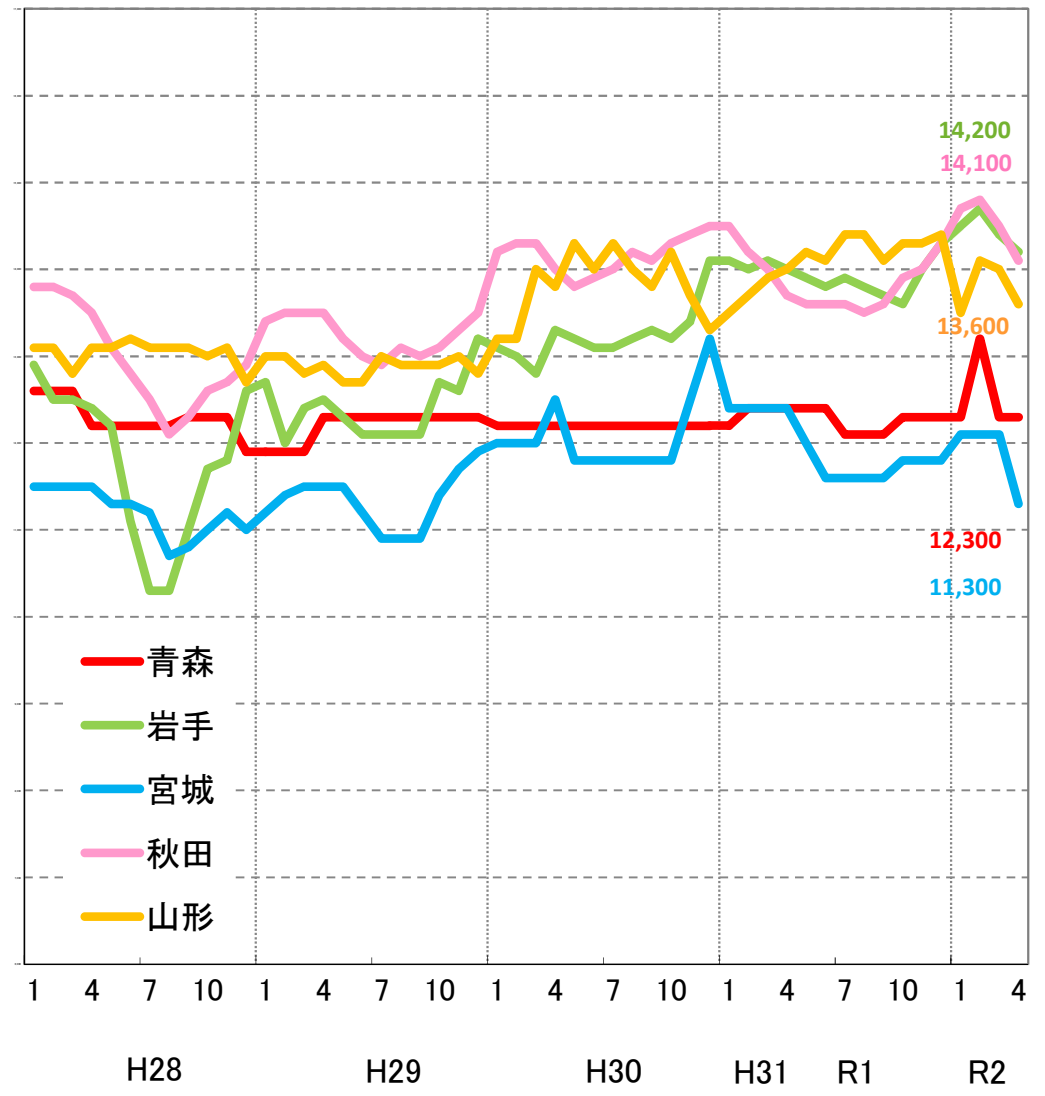
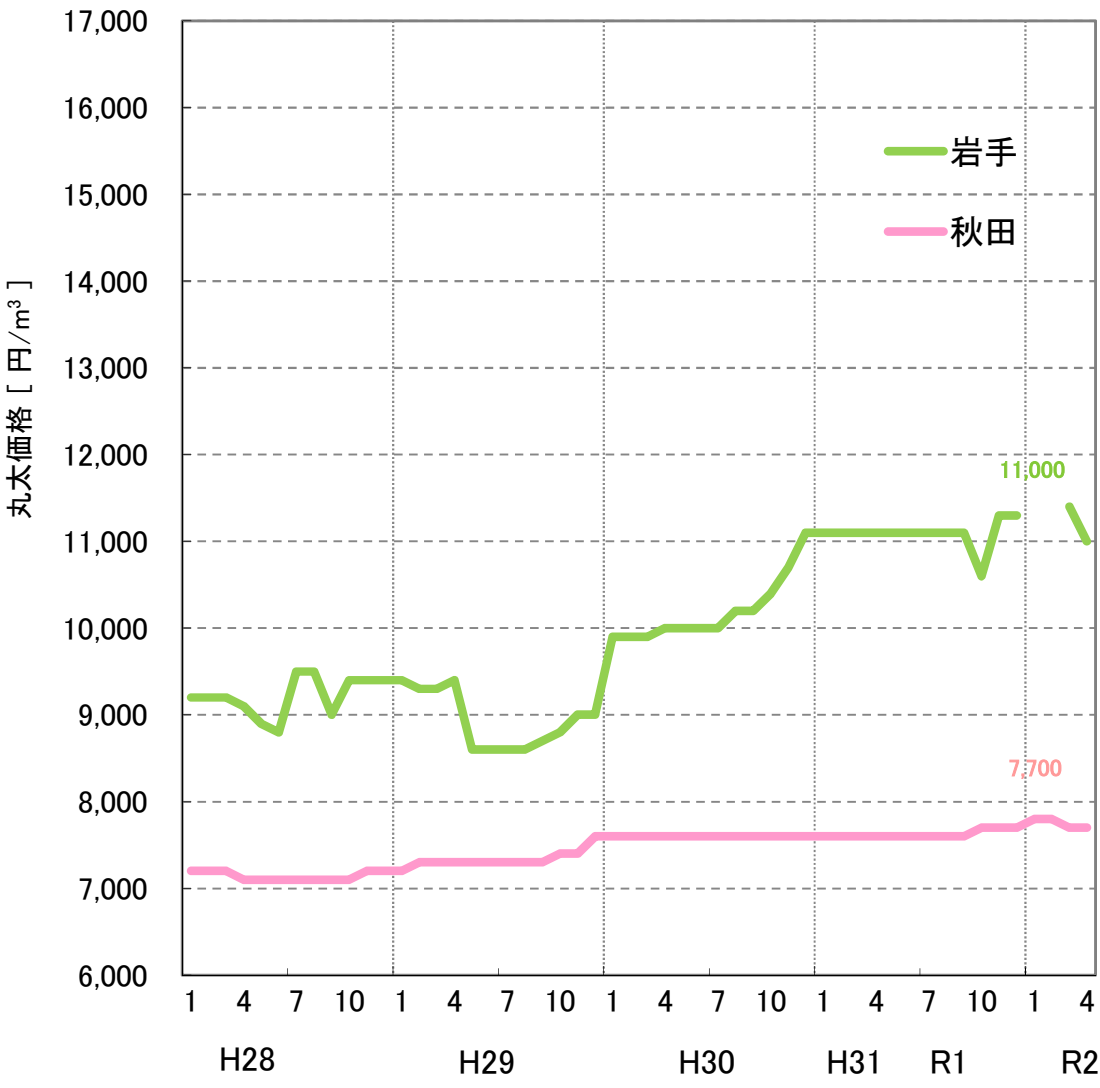
出典：農林水産省「合板統計」

# ■ すぎ丸太価格の推移 (平成28年1月～令和2年4月)

○ すぎ小丸太価格は、秋田は保合、岩手は弱含み。  
 ○ すぎ中丸太価格は、青森が保合、その他の県は弱含み。

すぎ小丸太 3.65～4.00m (8～13cm)

すぎ中丸太 3.65～4.00m (24～28cm)



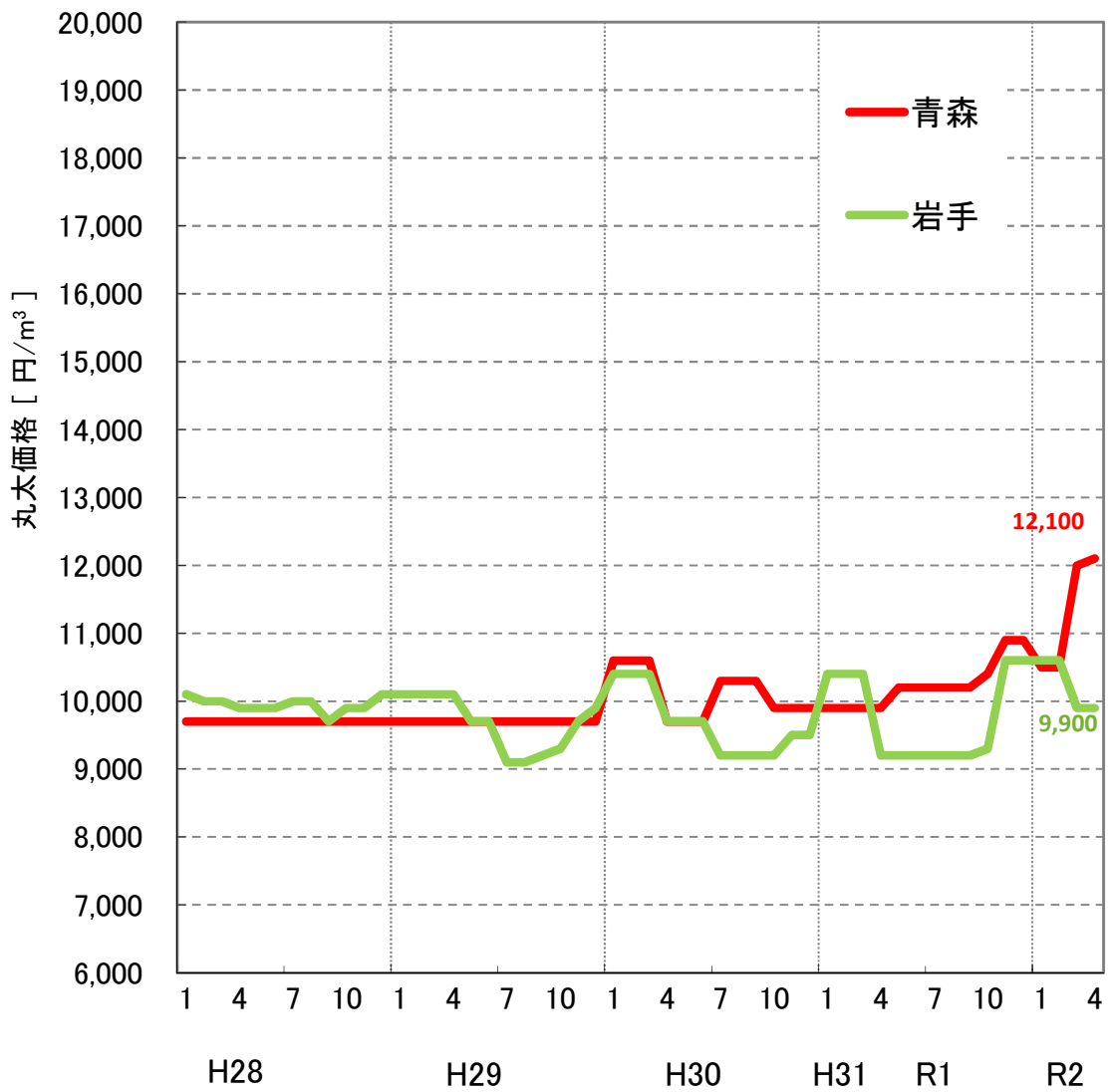
出典:農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」 ※ 工場着価格。

※ 平成30年1月に調査都道府県、調査対象工場の見直しを行ったことから、平成29年12月以前の数値とは接続しない。

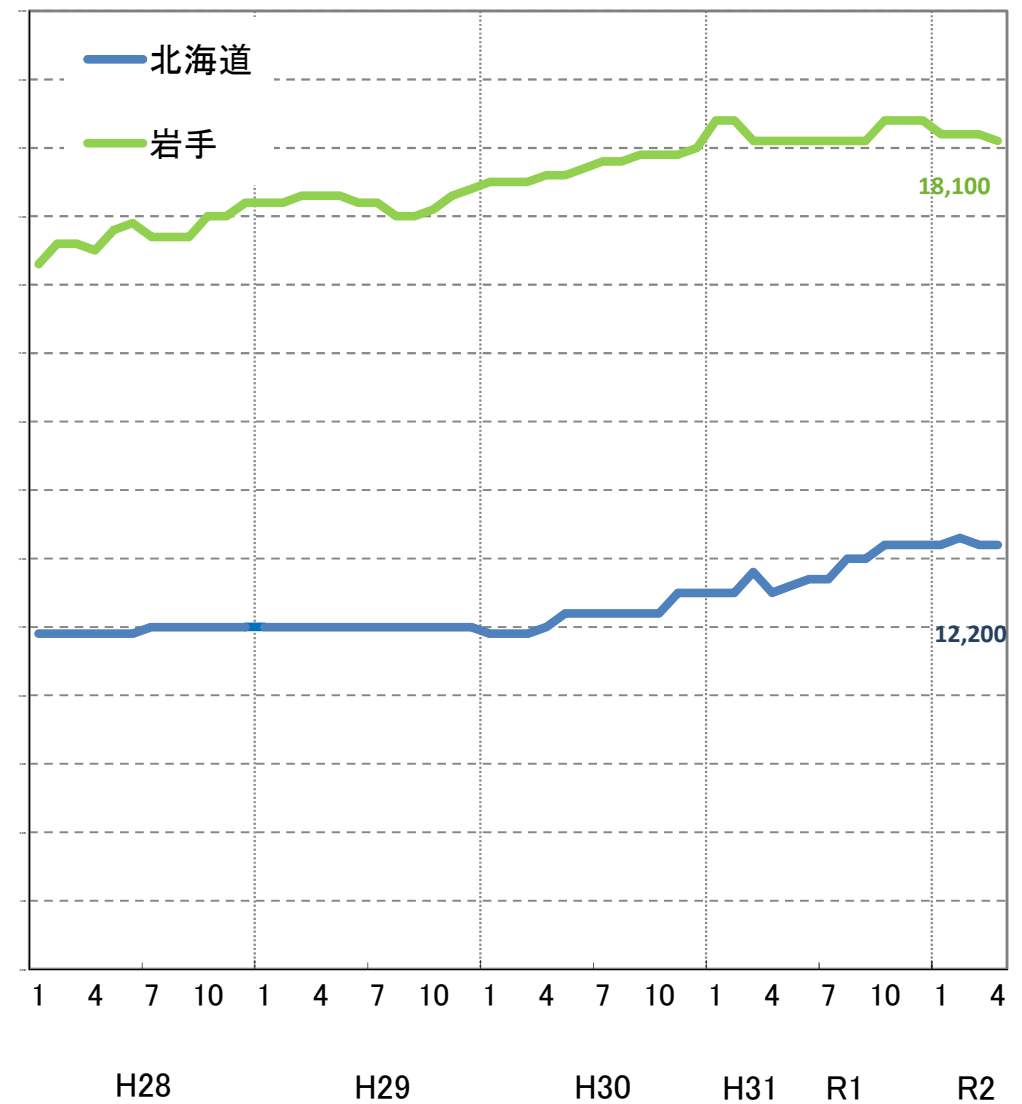
# ■ まつ・からまつ丸太価格の推移 (平成28年1月～令和2年4月)

○ まつ中丸太価格は、青森で強含み、岩手は保合。  
 ○ からまつ丸太価格は岩手・北海道とも保合。北海道との価格差は5,900円。

まつ中丸太 3.65～4.00m (24～28cm)



からまつ中丸太 3.65～4.00m (24～28cm)



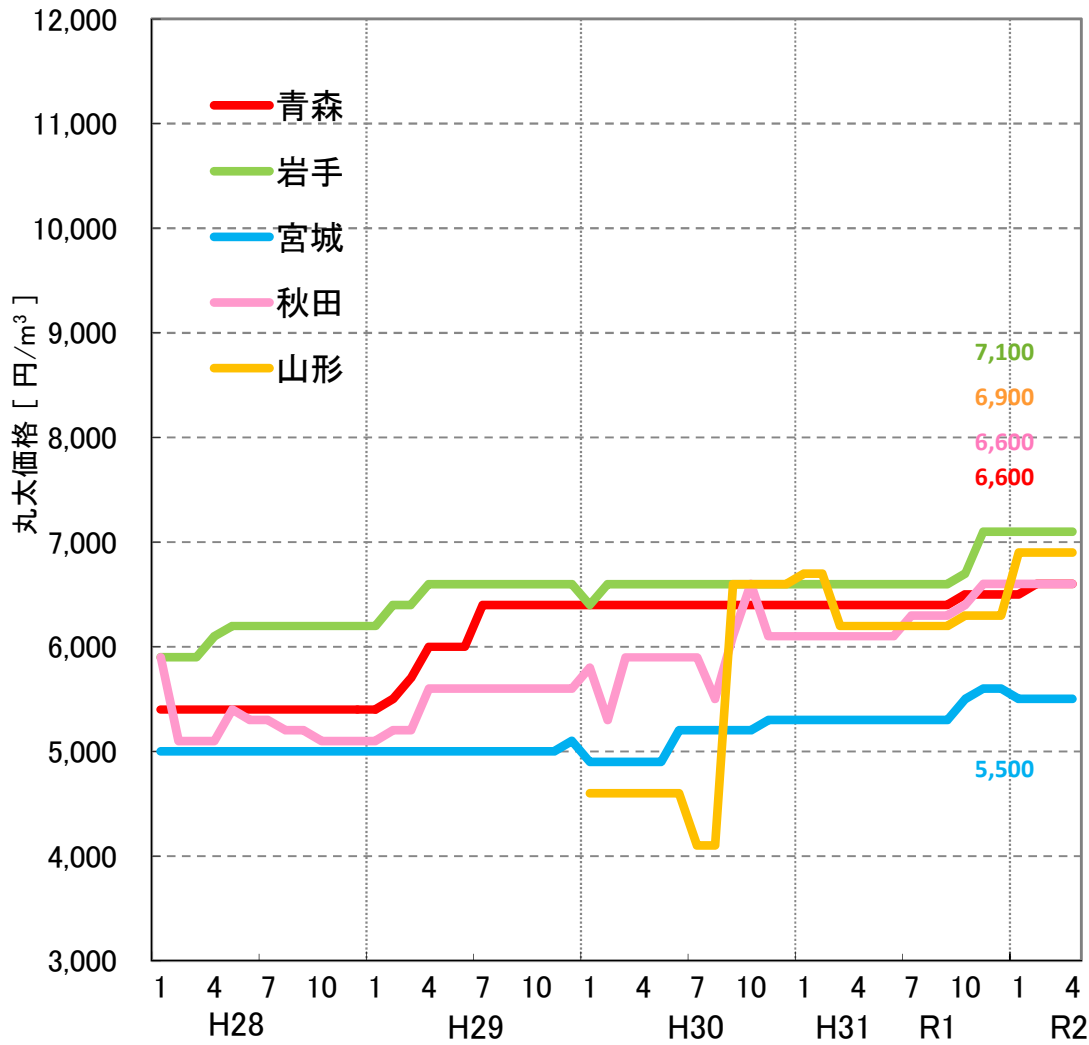
出典: 農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」 ※ 工場着価格。

※ 平成30年1月に調査都道府県、調査対象工場の見直しを行ったことから、平成29年12月以前の数値とは接続しない。

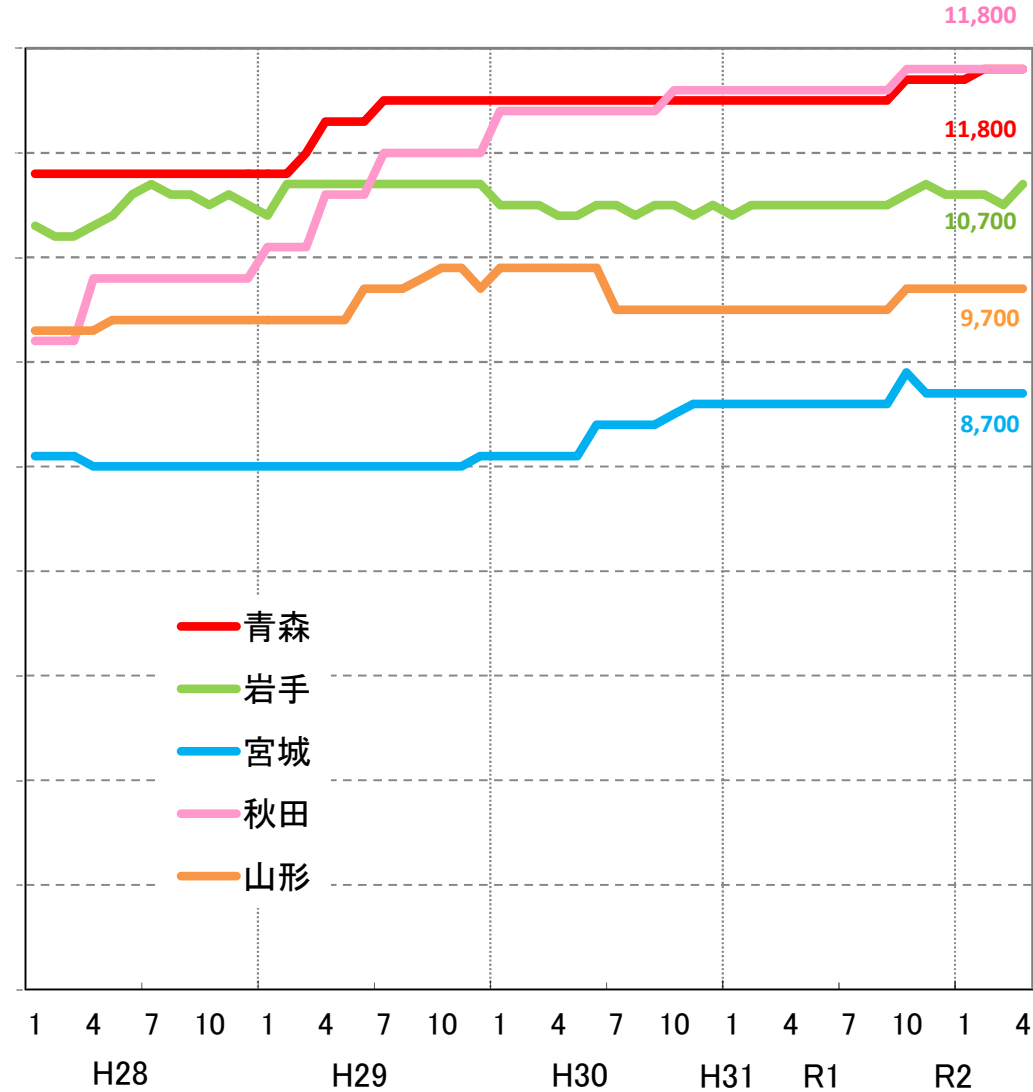
# ■チップ用丸太価格の推移 (平成28年1月～令和2年4月)

○ チップ用丸太価格は針葉樹・広葉樹とも保合。

## 針葉樹材



## 広葉樹材

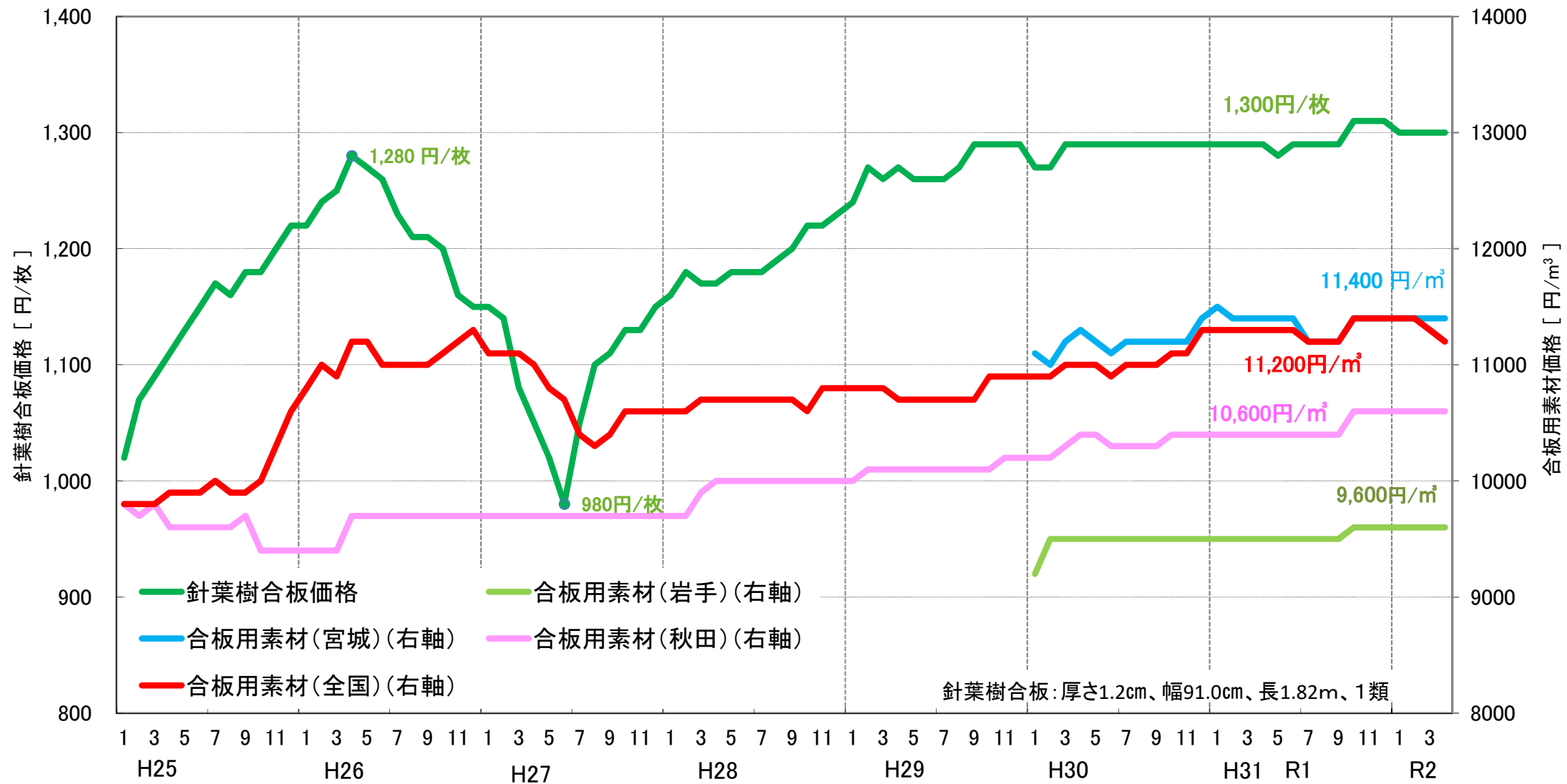


出典: 農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」 ※ 工場着価格。

※ 平成30年1月に調査都道府県、調査対象工場の見直しを行ったことから、平成29年12月以前の数値とは接続しない。

# 針葉樹合板及び合板用素材価格の推移 (平成28年1月～令和2年4月)

○ 針葉樹合板価格は、1,300円/枚。  
 ○ 合板用素材価格は、岩手・宮城・秋田は保合で推移。



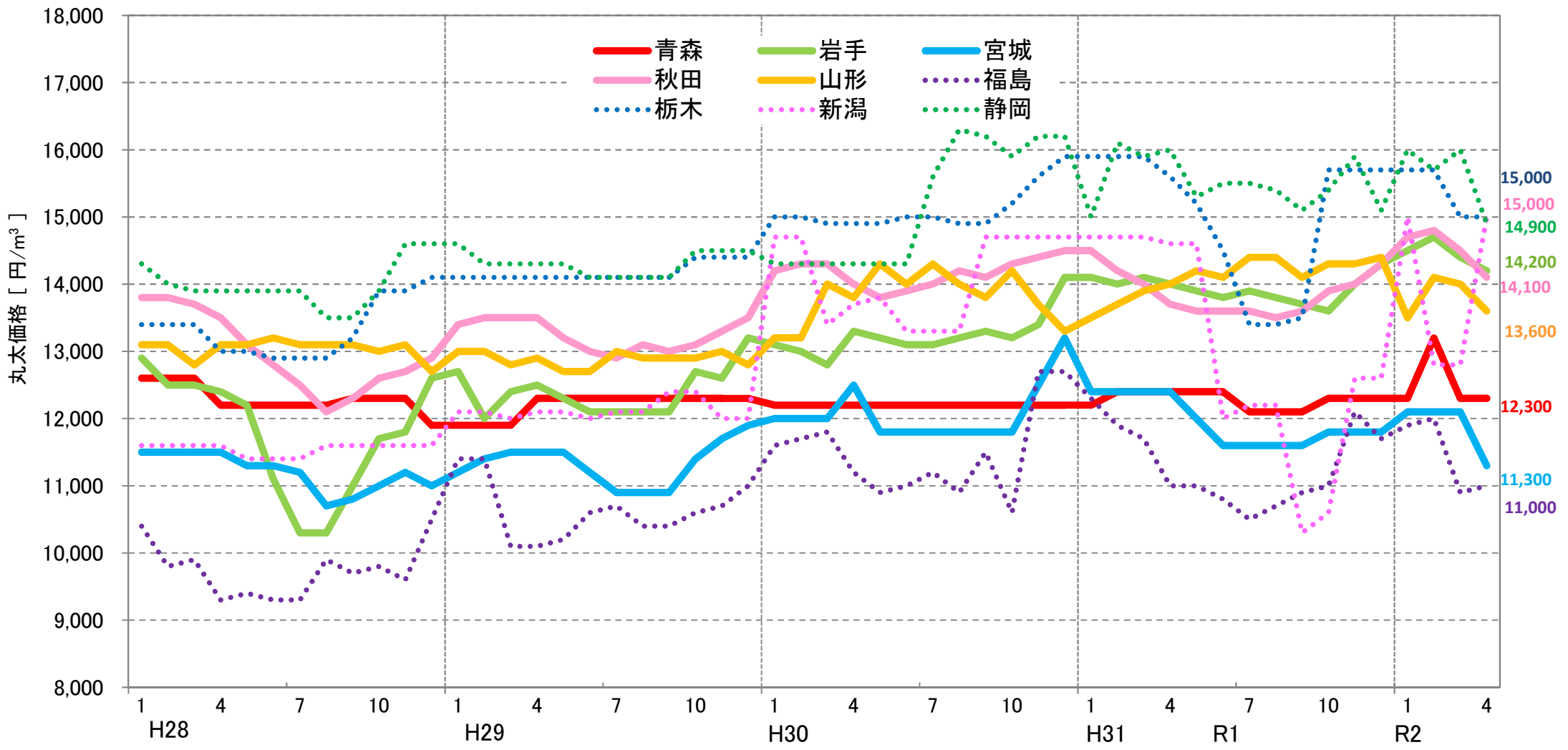
出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」  
 ※ 平成30年1月に調査都道府県、調査対象工場の見直しを行ったことから、平成29年12月以前の数値とは接続しない。  
 ※ 針葉樹合板価格は、木材市売市場、木材センター及び木材卸売業者における小売業者への店頭渡し価格。合板用素材価格は、合単板工場着購入価格である。



# ■ 関東地方との木材価格の比較 (平成28年1月～令和2年4月)

○ 東北5県では青森が保合、その他の県は弱含み。  
 ○ 福島・栃木・静岡は弱含み。

すぎ中丸太 3.65～4.00m (24～28cm)



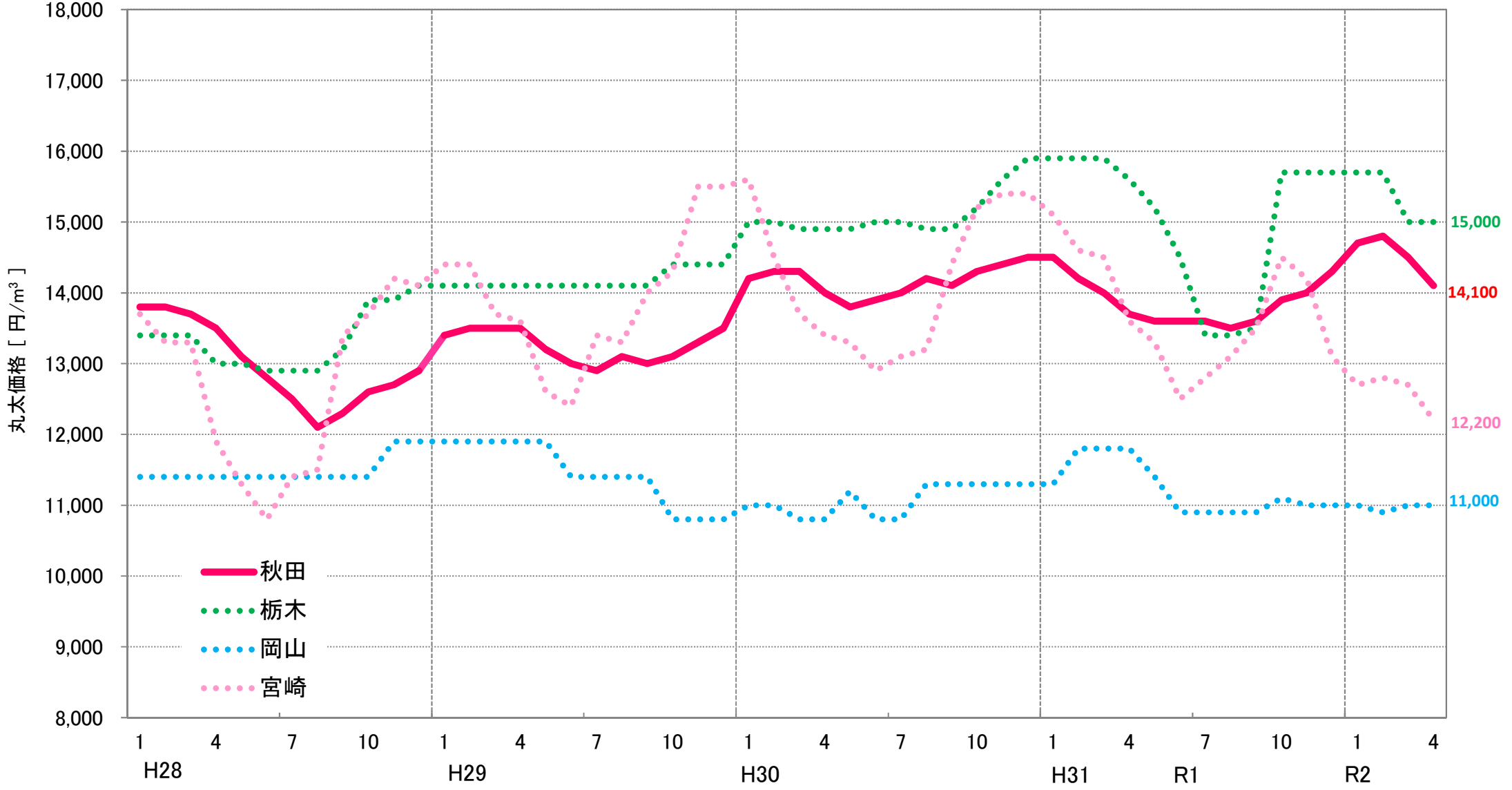
出典:農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」 ※ 工場着価格。

※ 平成30年1月に調査都道府県、調査対象工場の見直しを行ったことから、平成29年12月以前の数値とは接続しない。

# ■ 関東、関西、九州地方との木材価格の比較 (平成28年1月～令和2年4月)

○ 岡山は保合。秋田、栃木、宮崎は弱含み。

すぎ中丸太3.65～4.00m (24～28cm)

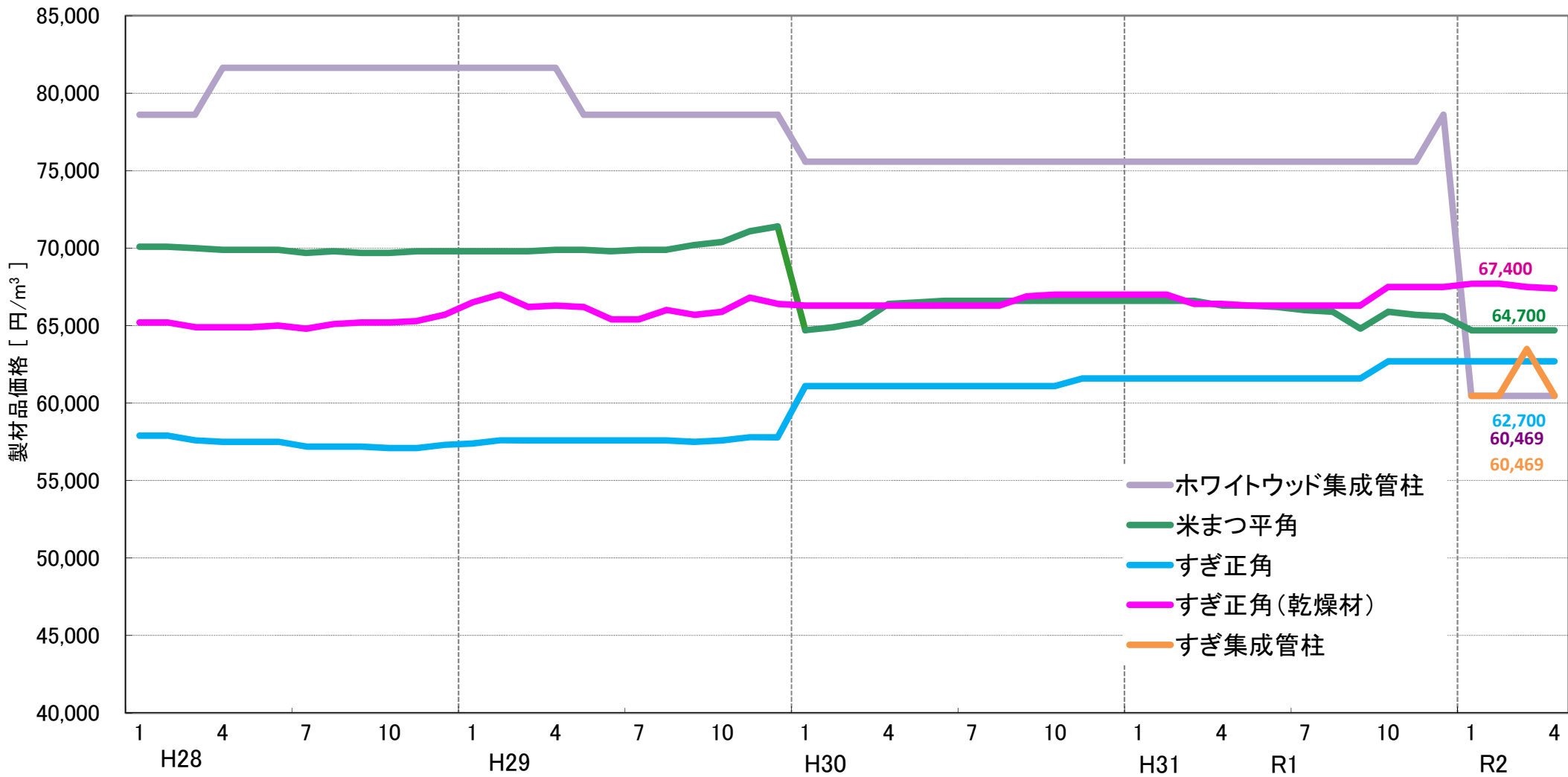


出典: 農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」 ※ 工場着価格。

※ 平成30年1月に調査都道府県、調査対象工場の見直しを行ったことから、平成29年12月以前の数値とは接続しない。

# ■ 全国の製材品主要品目価格の推移 (平成28年1月～令和2年4月)

○ 各製品ともおおむね保合で推移。



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

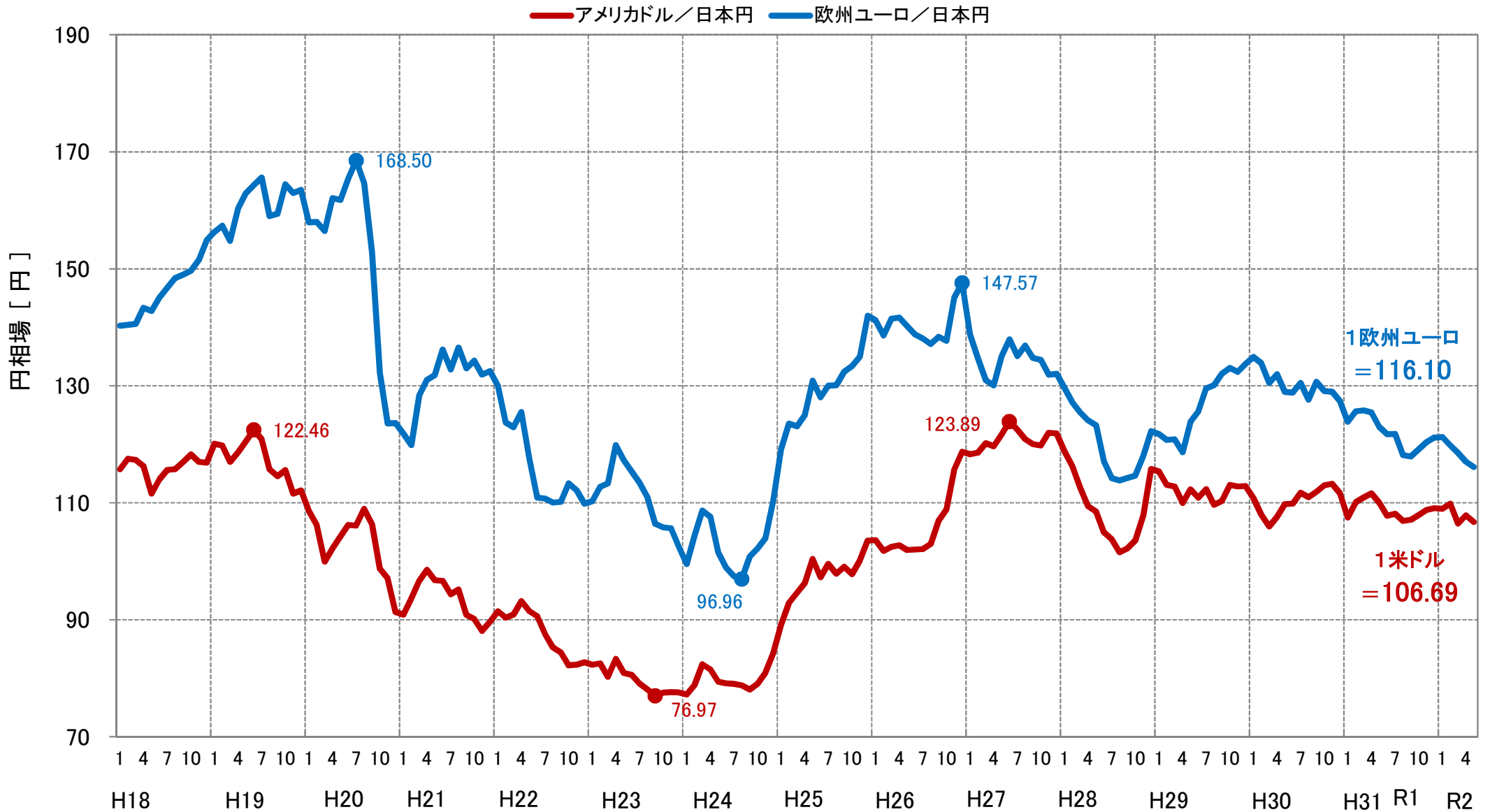
※1 価格は、令和2年1月以降のホワイトウッド集成管柱及びすぎ集成管柱は集成材工場出荷時の販売価格、それ以外は木材市売市場、木材センター及び木材卸売業者における小売業者への店頭渡し価格となる。

※2 平成30年1月に調査都道府県、調査対象工場の見直しを行ったことから、平成29年12月以前の数値とは接続しない。

※3 令和2年1月からホワイトウッド集成管柱は規格及び調査都道府県、調査対象工場の見直しを行い、調査価格も※1の通り変更となったことから、令和元年12月以前の数値とは接続しない。

# 為替レートの推移 (平成18年1月～令和2年5月)

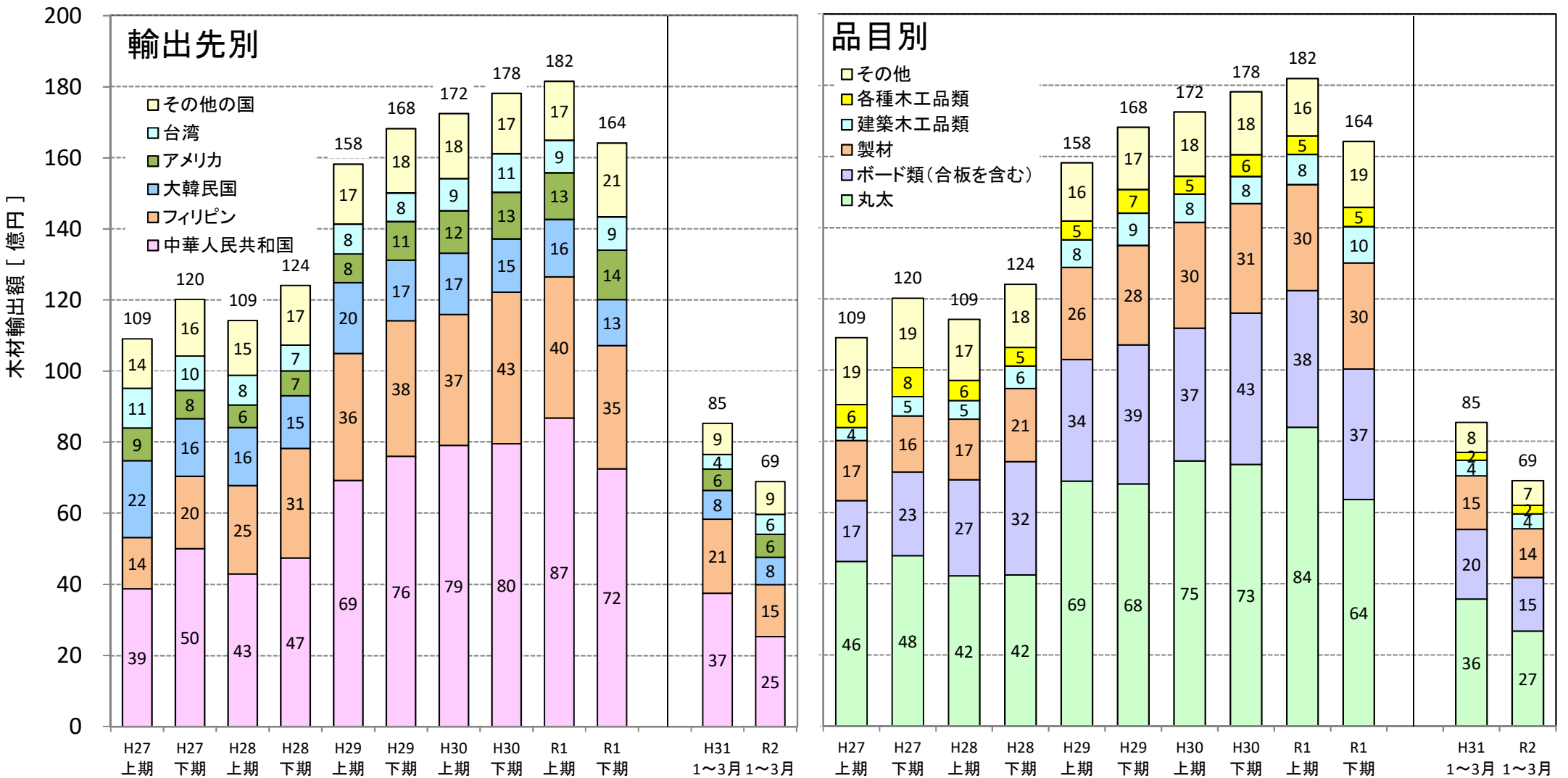
- 米ドルは、5月11日現在106円台。
- 欧州ユーロは、5月11日現在116円台。



出典：Yahoo! ファイナンス(毎月の値は、月間の最高値と最低値の平均)

# 輸出先別及び品目別の木材輸出額の推移（全国）

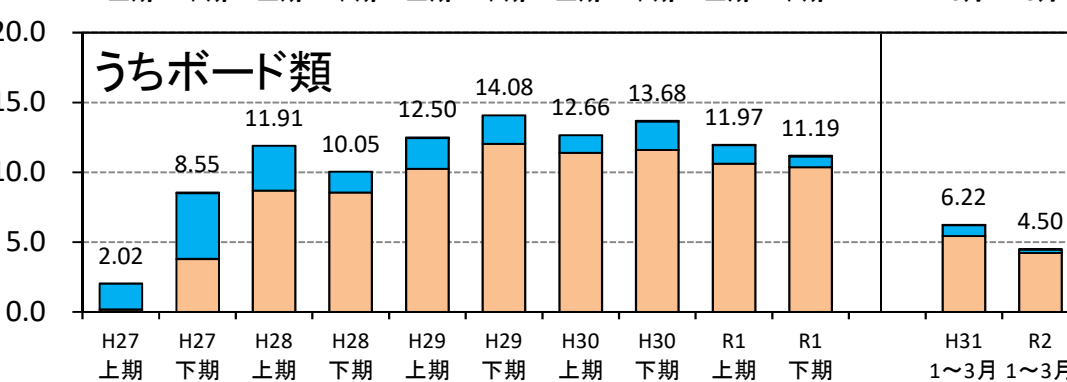
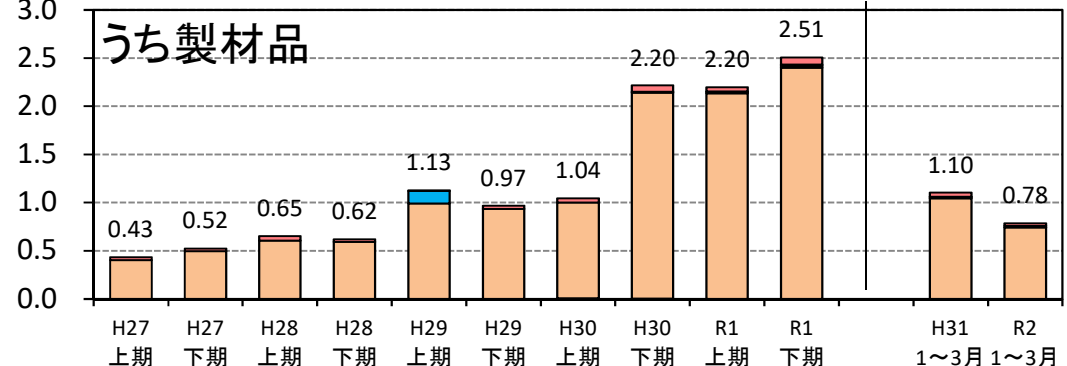
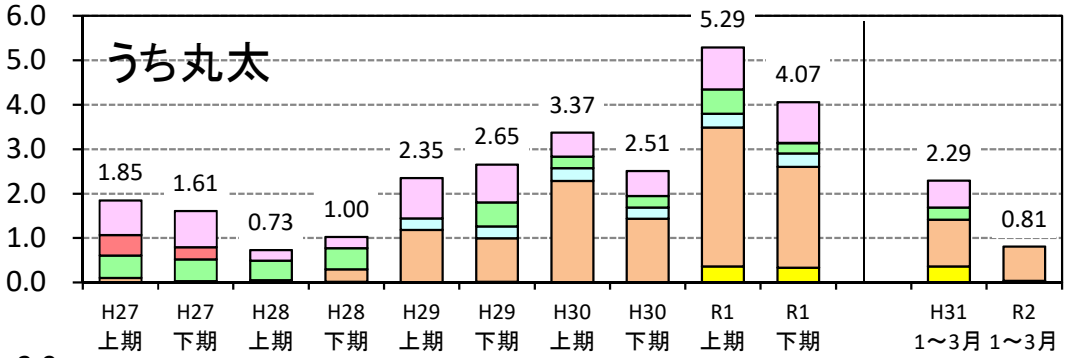
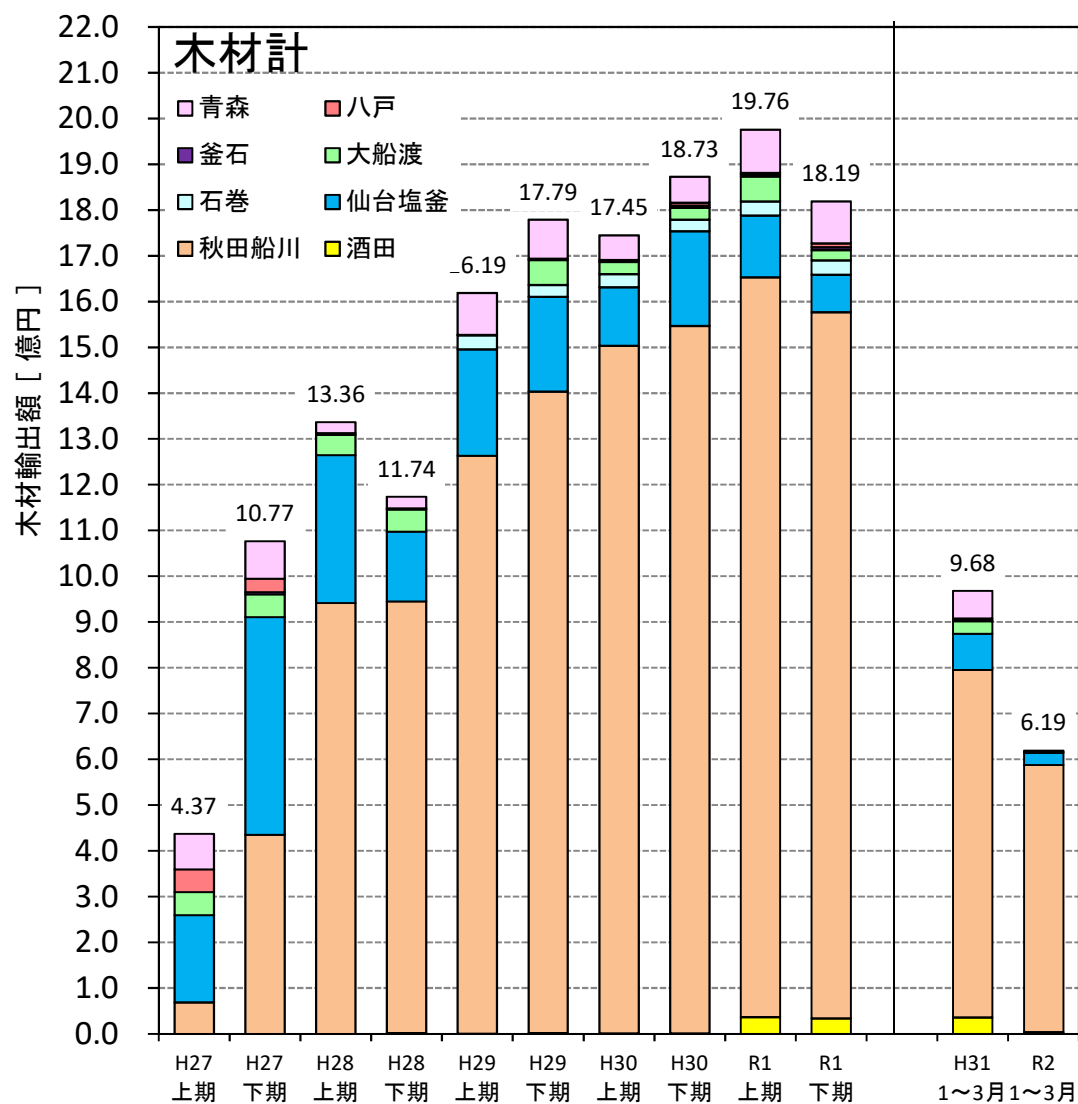
- 木材輸出額はR2年1月～3月期を去年同期と比較すると-19%となっている。
- R2年1月～3月期の主要相手国は、中国、フィリピン、韓国、アメリカ、台湾となっている。
- 品目別輸出額では、丸太が最も高く、次いでボード類、製材となっている。
- R2年1月～3月期と去年同期を比較すると、丸太が-25%、製材が-9%、ボード類が-23%となっている。



出典：財務省「貿易統計：統計品別国別税関別一覧表」

# ■ 東北5県における木材輸出額の推移

○ R2年1月～3月期と昨年同期を比較すると-36%となっている。  
 ○ R2年1月～3月期と昨年同期を品目別比較すると、丸太が-65%、製材が-29%、ボード類が-28%となっている。

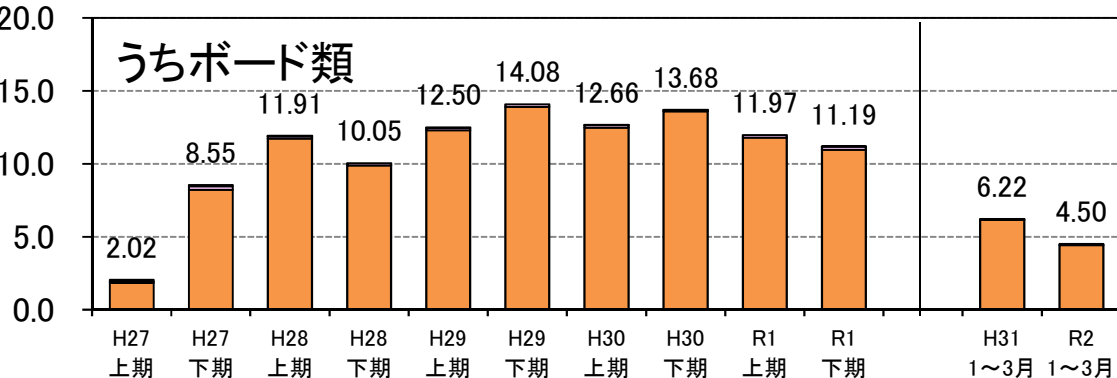
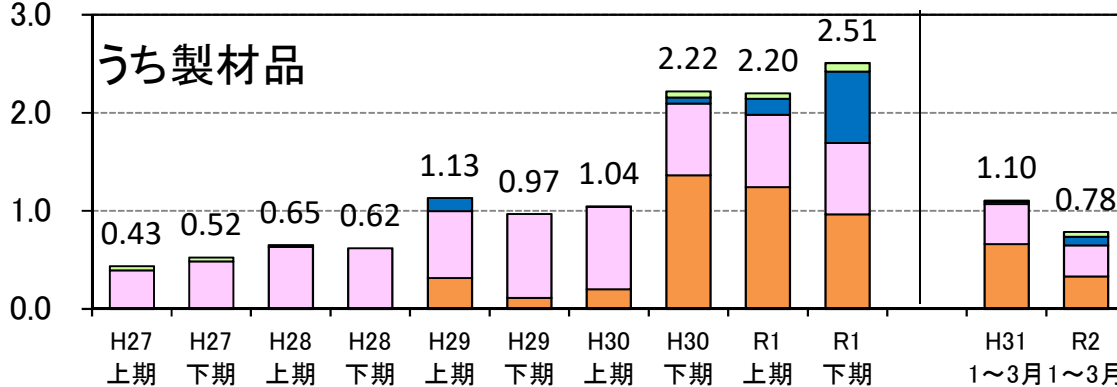
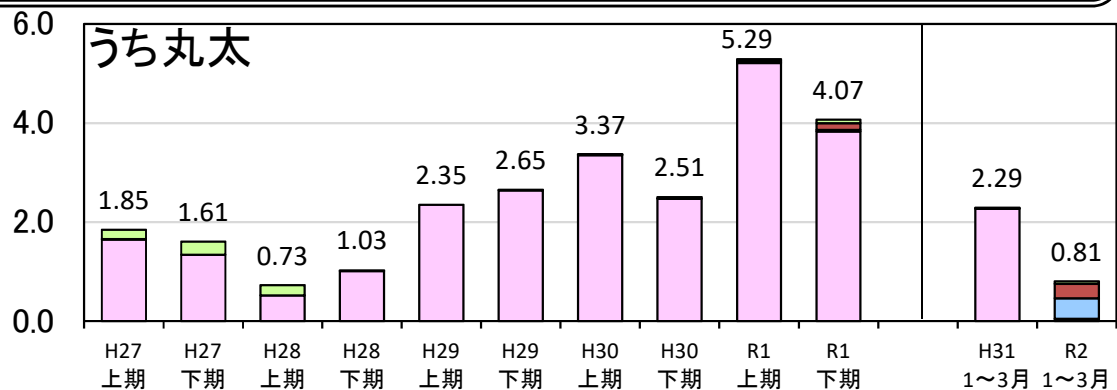
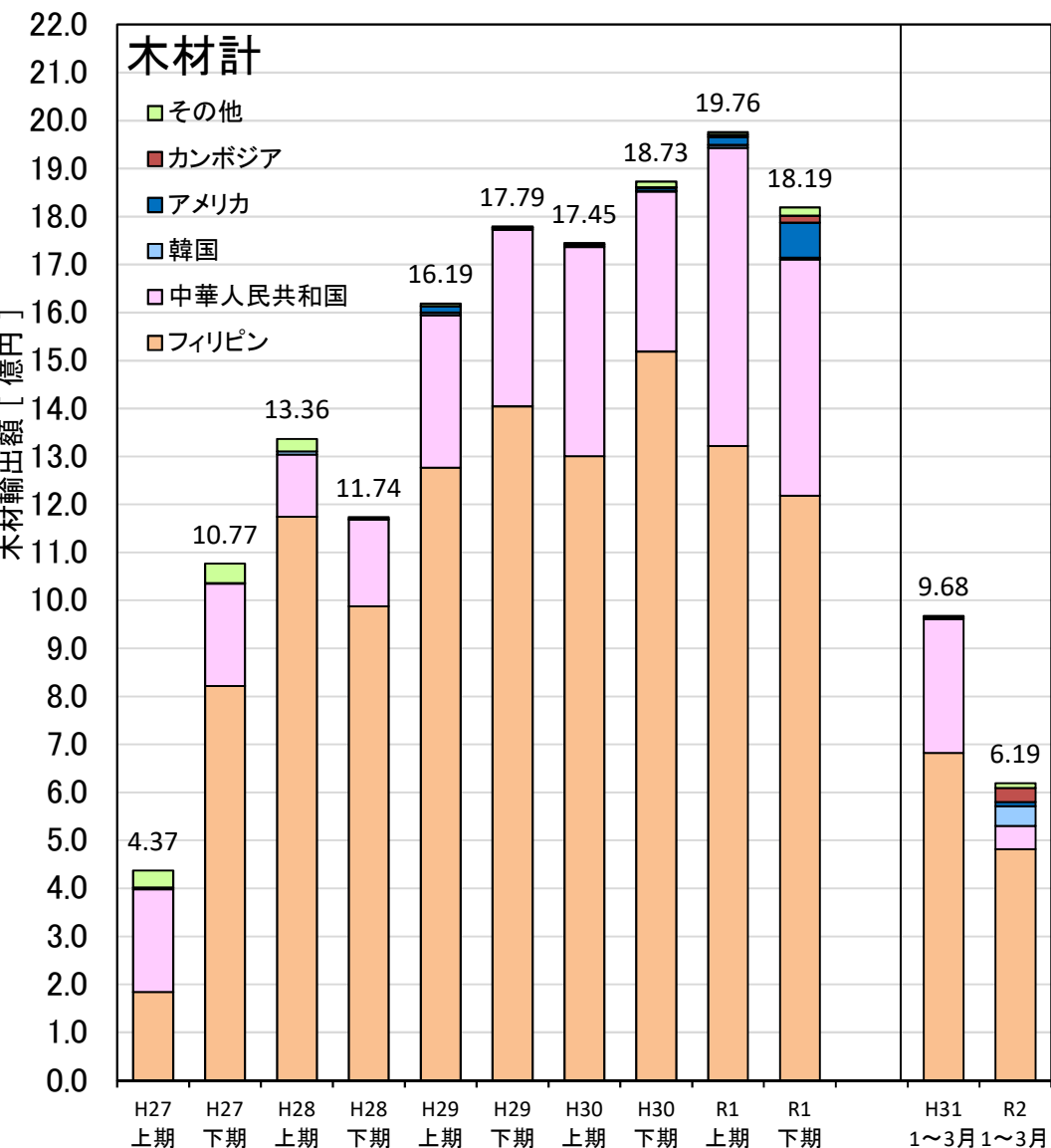


出典: 財務省「貿易統計: 統計品別国別税関別一覧表」

# ■ 東北5県における輸出先別の木材輸出額の推移

○ R2年1月～3月期の木材輸出額は、フィリピンが最も多く、次いで中国となっている。

○ 品目別では、丸太は韓国が最も多く、製材、ボード類はフィリピンが最も多くなっている。



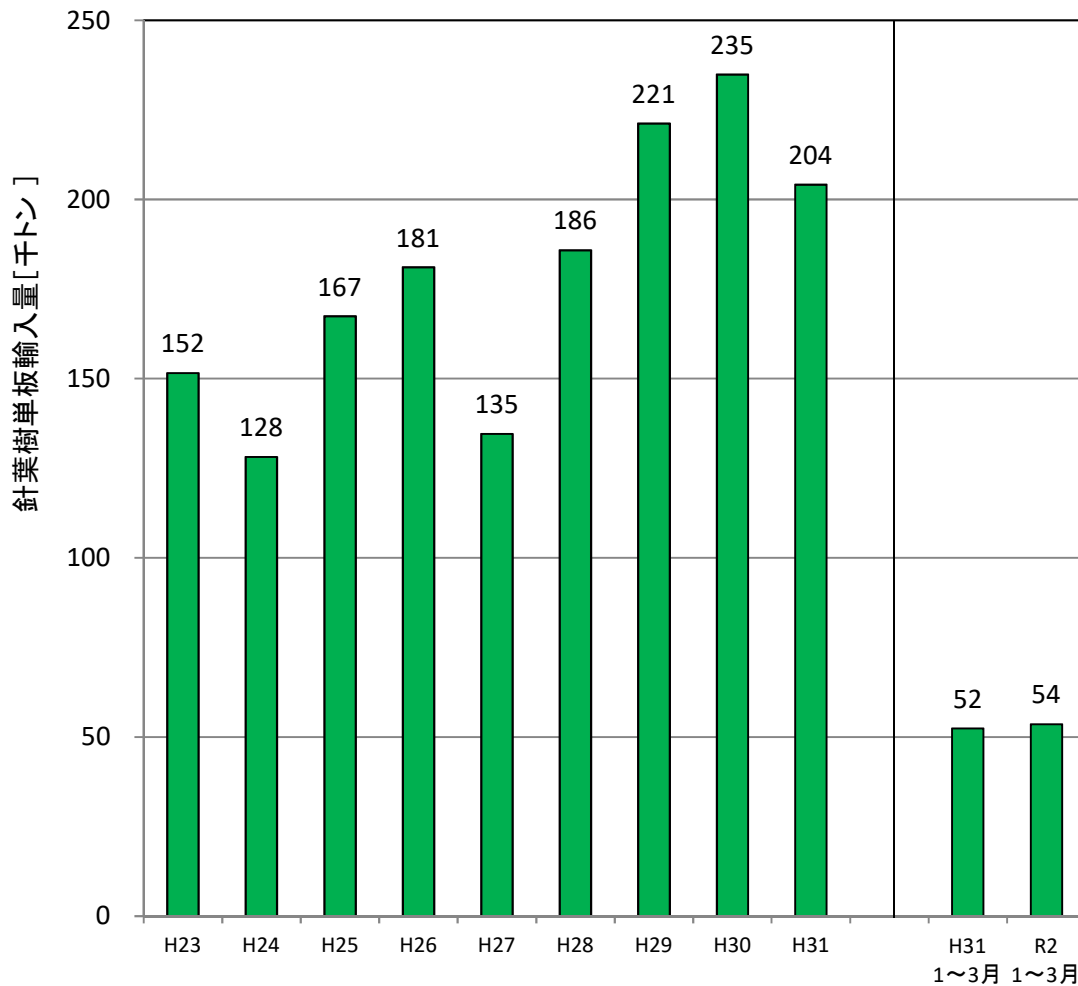
出典: 財務省「貿易統計: 統計品別国別税関別一覧表」

## ロシアからの針葉樹単板の輸入量の推移

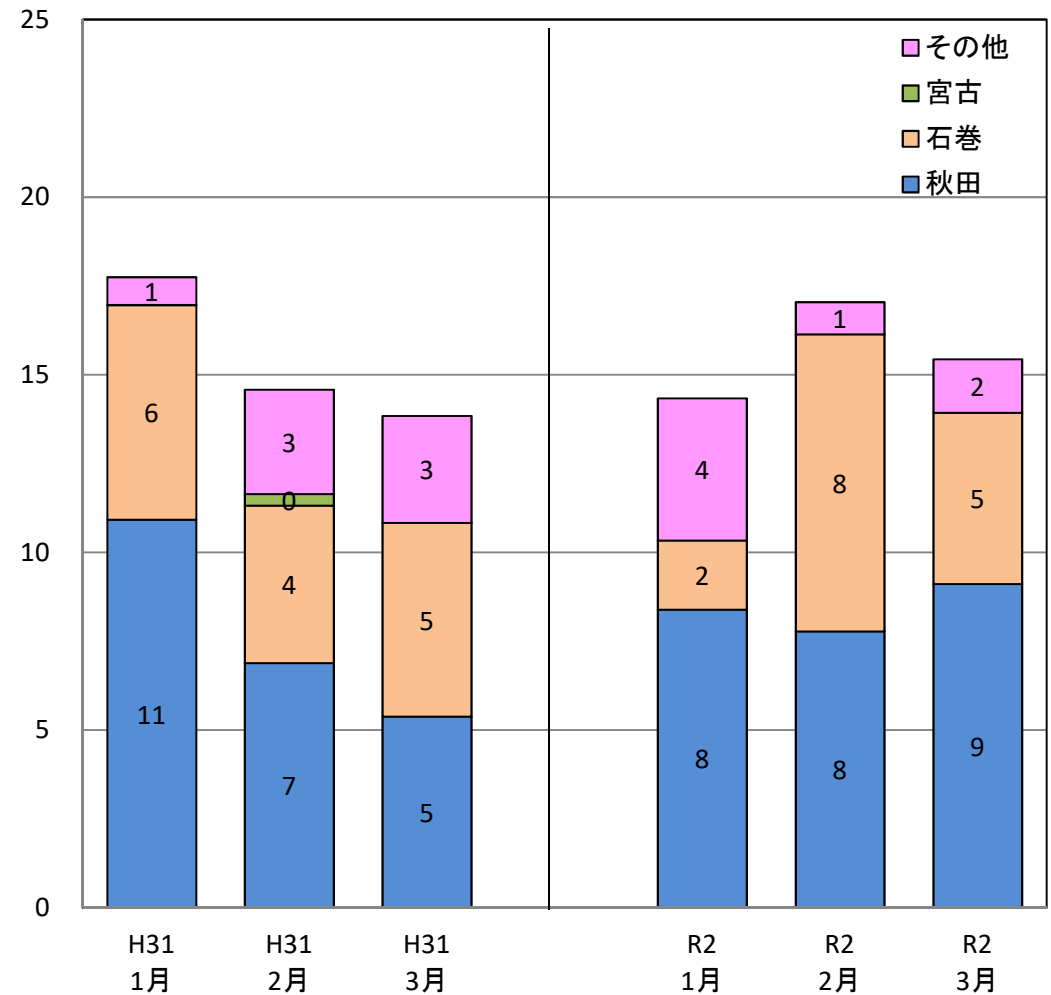
○ R2年1～3月と前年同期を比較すると+2%となっている。

○ R2年1～3月の港別輸入量の比率は、秋田が54%、石巻32%、その他14%となっている。

### 針葉樹単板(ロシア)



### 月別港別輸入量

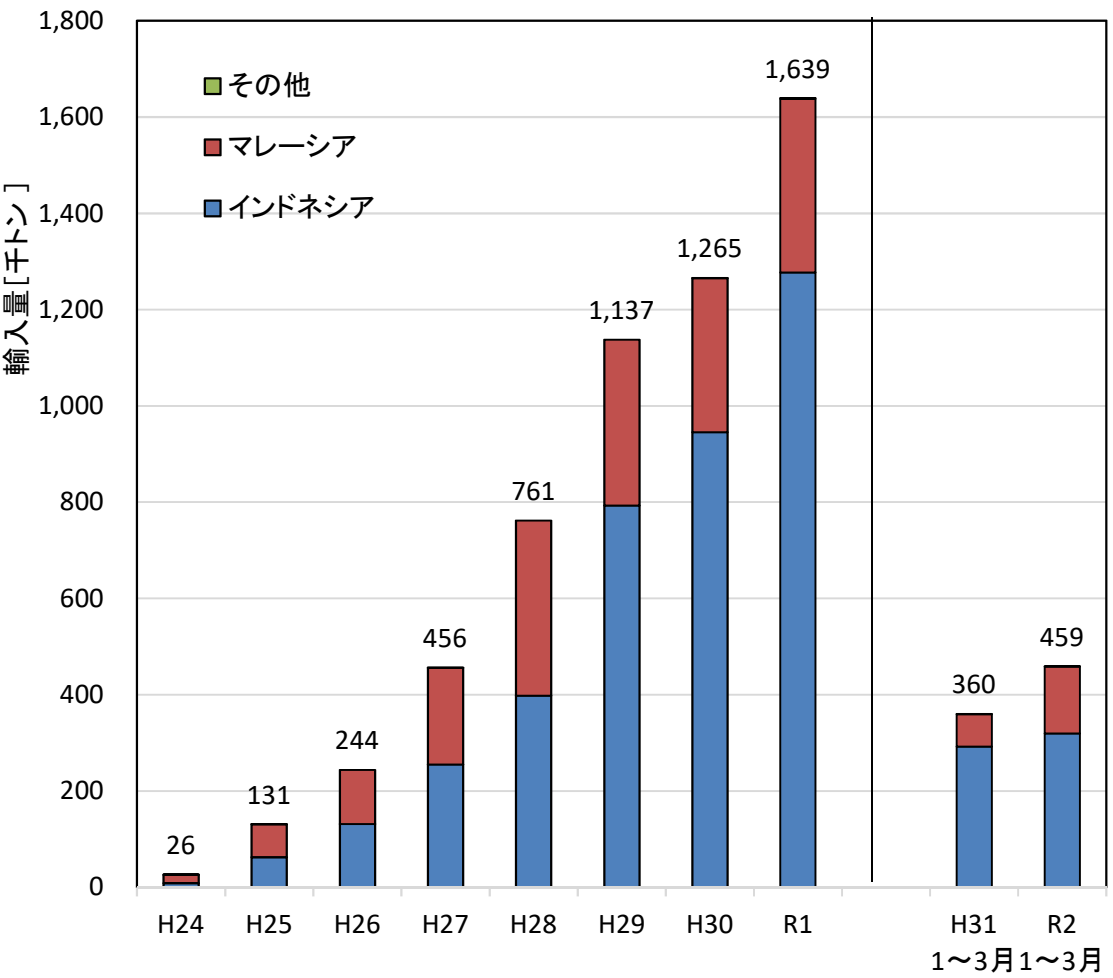




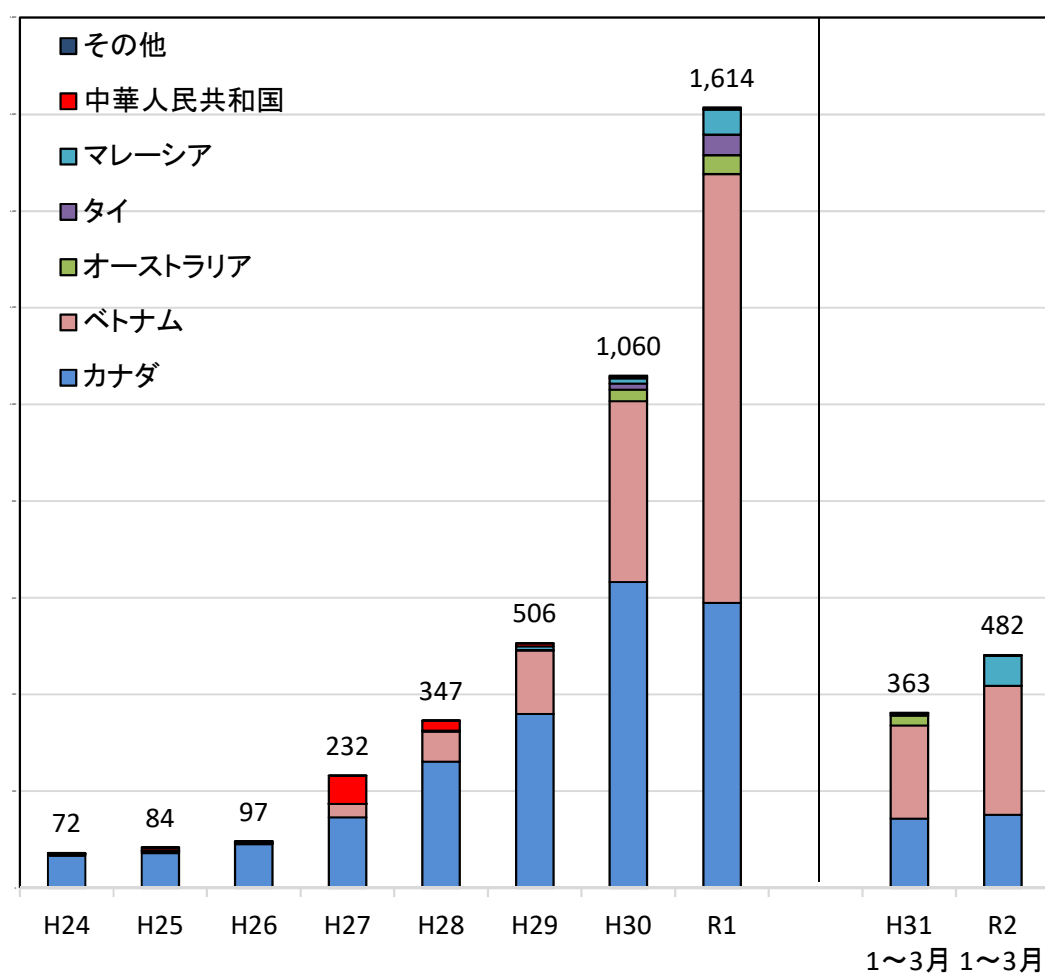
# PKS・木質ペレットの輸入量の推移

○ PKS輸入量は年々増加しており、R2年1～3月と昨年同期を比較すると+27%となっている。  
 ○ 主な輸入相手国は、インドネシア70%、マレーシア30%となっている。  
 ○ 木質ペレット輸入量は増加しており、R2年1～3月と昨年同期を比較すると+33%となっている。  
 ○ 主な輸入相手国は、ベトナム55%、カナダ31%、マレーシア13%となっている。

## PKS



## 木質ペレット



出典：財務省「貿易統計：品別国別統計」